

新約
聖書

馬太傳

價

全

02-SI

海老澤文庫

23-1
2-11
P-263

聖人傳

明治十二、三頃

分冊看事は活字本になると洋版(又ハ仏教)本とな
るが、本書は和装谷綴で、現在のところ本書以外
に聖人傳を見ない

海老澤有道文庫

新約全書 馬太傳福音書

アブラハムの裔あるダビテの裔イエスキリストの系図

アブ	ラハム	イサク	ヤコブ	ヨダ	兄弟	生リ
ユダ	タマル	小由てバレス	ザラ	バレス	エスロン	エスロンアラ
ム	アラム	アミナダブ	アミナダブナ	アソン	ナアソン	サルモ
ン	サルモソラハブ	小由てボアズ	ボアズルツ	小由てオベデ	オベデ	生
オ	エツサイ	ニツサイ	ダビデ王	ダビデ王	ダビデ王	エツサイ
ベ	モソ	ソロモン	レハベアム	レハベアム	アロア	モソ
デ	モ	ハ	アサヨサバテ	ヨサバテヨラム	アビニア	モ
ル	ヤ	ア	ヨタム	アカズ	アカズヘゼ	ヤ
シ	エ	マ	マナセアモン	アモンヨシ	キヤヘゼ	マナ
テ	ル	シ	アホヤキン	アホヤキン	ヘゼキヤ	シ
ビ	ル	ア	其兄弟	アモン	ヘゼキヤ	ア
テ	ル	シ	と生	ヨシ	ヘゼキヤ	ビウデ
ル	ル	ア	シエル	バベル	ヘゼキヤ	エ
ル	ル	ゼ	バベル	バビロン	ヘゼキヤ	

リアキント生エリアキンアヅルを生アヅルザドクを生ザドクアキム
 リストと稱るイエス生エリウデエリザルを生エリアザルマツタン
 生マツタンヤコブと生ヤコブマリアの夫ヨセフと生り此マリアよりキ
 リストと稱るイエス生エリウデエリザルを生エリアザルマツタン
 其世系を數きアブテハムよりダビデ
 ふ至るまで十四代ダビデよりバビロン
 ふ徒さき志よりキリストまで十四代なり○ろきイエスキリストは生を給
 るふと左は如其母マリア之ニセフと聘定と爲るにあて未だ信ふなら
 ザリしとき聖靈小感じて孕んが其孕ること顯きけさを
 ある故ふ之と居夫ヨセフ義人
 念せる時斯て此事と思
 マリアと娶めざることと懼る勿ろは孕る所にて者ハ聖靈ふ由あり
 ん其名ニニテ此事
 ハ預言者凡て此事
 ハ託て主は曰カミヒ一言ハ
 處女之らみて子を生ん其名カミヒ

マヌエルと稱ベ一と有ふ應せん爲なリ其名と譯を神召きらと偕ふ在との
 義ヨセフ寝ヨセフより起テ主は使者の命ぜ一言ハ道ひ其妻と娶されど
 家子ヨリヒ生ヨリヒるまで牀と同ヨリヒせざりき其生ヨリヒ一子とイエスと名けられど
 夫ヨセフイエスヘロデ王時ユダヤハベツレヘム生ヨリヒを給ケ其とハ
 博士ヨハネたち東ヨハネ方ヨハネよりエルサレムハタハタ來ハタハタりハタハタ曰ハタハタけるハタハタユダヤ人ハタハタ王ハタハタとハタハタて生ハタハタを
 紿ハタハタる者ハタハタ何處ハタハタふ在ハタハタす乎ハタハタ以色列ハタハタ東ハタハタ方ハタハタにて其星ハタハタを見ハタハタさハタハタ彼ハタハタと拜ハタハタせん爲ハタハタに
 來ハタハタれりハタハタヘロデ王ハタハタこハタハタと聞ハタハタて痛ハタハタむ又ハタハタエルサレムハタハタハ民ハタハタもハタハタ然ハタハタりハタハタ凡ハタハタ祭ハタハタ
 司ハタハタ長ハタハタと民ハタハタ學ハタハタ者ハタハタとハタハタ集ハタハタてハタハタヘロデ問ハタハタけるハタハタキリストハタハタは生ハタハタるべき處ハタハタハ何所ハタハタ
 なる乎ハタハタ答ハタハタけるハタハタユダヤハタハタハベツレハタハタヘムハタハタありハタハタ蓋ハタハタ預言者ハタハタは錄ハタハタさハタハタきハタハタる言ハタハタふハタハタ
 ヨダヤハタハタ地ハタハタベツレハタハタヘムハタハタよ爾ハタハタハユダヤハタハタハ郡ハタハタ中ハタハタふて至ハタハタ小ハタハタきものふ非ハタハタす我ハタハタイス
 ラエルハタハタの民ハタハタと牧ハタハタふべき君ハタハタろハタハタ中ハタハタより出ハタハタんと云ハタハタをなりセ是ハタハタふ於ハタハタてヘロデ密ハタハタ
 ふ博士ハタハタ等ハタハタと召ハタハタ星ハタハタは現ハタハタ色ハタハタ一時ハタハタと詳ハタハタや問ハタハタてハタハタ彼ハタハタ等ハタハタとベツレハタハタヘムハタハタお遣ハタハタさんハタハタ
 して曰ハタハタけるハタハタ往ハタハタて嬰ハタハタ兒ハタハタれ事ハタハタと細ハタハタみ尋ハタハタこハタハタと遇ハタハタを我ハタハタふ告ハタハタよ我ハタハタも亦ハタハタゆきて拜ハタハタ

モベー る色ら王の命と聞て往り前ふ東方にて見たり一星の色らふ先
ちて嬰兒は居所にいきり其上ふ止てぬ + 彼等こ北星を見て甚く喜び 飽
ふ室に入ければ嬰兒は其母マリアと偕に居て見ひをふして嬰兒と拜一寶
は金と開て黄金乳香没藥など禮物と献さり 十二はあせ 博士夢ふヘロデへ返る勿と
は賦示と蒙りて他は途より其國ふ歸をり〇 十三かれら 彼等去るにち主は使者ヨロ
セフは夢ふ現きて曰けるヘロデ 婴兒と索て殺んとする故ふ起て嬰兒と
其母とと掣ヘエジプロトふ逃て復旦ダルふ示さん時まで彼處ふ止れ 十四 ヨセ
フ起て夜嬰兒と其母とと掣ヘエジプロトふ往ヘロデに死るまで其所ふ止
色り是主預言者ふ託て我旦ダ子とエジナトより召出せりと云給ひ一ふ應
せん爲り 是ふ於てヘロデ博士ふ欺うをさるとあ里大ふいのり人と遣
して博士ふ詳く問さる時と度りベツレヘムと其境内ある二歳以下の嬰兒
兒と盡く殺せり 即ち預言者エレミヤは言ふ 歎き悲しき甚く哀る聲ラマふ
聞也ラケルろれ兒子と歎き其兒子乃無ふよりて慰と得すと云ふ應へり

十九 斯てヘロデ死一かを主は使者ヨセフは夢ふエジプロトふて現を曰ける
二十 起て嬰兒とろは母とを寧ヘイスラエルは地ふゆけ嬰兒は生命と索る者
己ふ死り 彼おきて嬰兒と其母とと掣へてイスラエルの地ふ至しが アケ
ラヲ父ヘロデふ代てユダヤは王さりと聞けば彼處ふ往ことを懼る又夢
ふ告と蒙りてガリラヤの内ふ避ミナザレと云る邑ふ至りて居り彼ハナザレ
人を稱せんと預言者ふ託て云きたる言ふ應せん爲り
二十 當時バアテスマのヨハ平來りてユダヤの野に宣傳へて = 曰ける
天國の近けり悔改めよ 是の主は道と徳と路線と直せよと野に呼る人は
ふ皮の帶とつるね蛇蟲と野蜜と食物とせり 五斯時エルサレム及びユダヤ
と舉まさニルダンは四方より人々出てヨハ子ふ就六己が罪と悔あら之
ヨルダンふて彼よりバアテスマと授られたり セバアテスマを受んとてパ
リサイ反七サドカイの人々は多く來れるを見て彼等曰ける娘は裔よ誰る

んちらふ來んとする怒と避へきふと告一や 然を悔改ふ符ふ果と結べ
よ 司曹わきらク先祖アブラハム有と云ことと意ふ勿き我爾曹ふ告ん
神は能みの石ともアブラハムの子と爲一め給ふあり 今や斧を樹れ根ふ
置る故ふ凡て善果と結ざる樹を研れて火ふ投入らるべ 我れ爾曹と悔
改せんとて水と以て爾曹ふバブテスマと授く我より後ふ來者に我ふ勝て
ちかく能力あり我れ其履と提ふも足す彼の聖靈と火ともて爾曹ふバブテスマと
授ん 手ふハ笑を持て其禾鳩と淨め麥屯獻て其倉ふいれ糠の燒ざる火
ふて燃へ一〇 斯時イエスヨハ子ふバブテスマと受んとてガリラヤより
ヨルダンふ來り給ふ ヨハ子辭て口けるハ我れ爾よりバブテスマを受ベ
き者ふるに爾反て我ふ來る乎 イエス答けるハ暫く許せ如此すべての義き
事に我信盡可あり是ふ於てヨハ子彼ふ許せり イエスバブテスマと受
て水より上せるとき天忽ち之ダ爲ふひらけ神の靈比鶴の如く降て其上ふ
来るど見る 又天より聲ありて此ハ我心ふ通ひが愛子ありと云り

第四章 借イエス聖靈ふ導き惡魔ふ試らきん爲ふ野ふ往り = 四十日四十
夜食ふ事とせず後う急たり 三 試むる者のきふ來りて曰けるハ爾も一神の
子ふらを命じて此石とパンと爲よ 四 イエス答けるハ人はパンにみて生
るものに非ず唯神は口より出る凡は言ふ因と錄さきたり 是ふ於て惡魔
かきと聖京ふ携へゆき殿に頂上ふ立て曰けるハ 尔も一神は子あら
を己が身と下へ投よ蓋あんぢケ爲に神ろは使等に命ぜん彼等手にて支へ
爾が足は石ふ觸ざるやうモベーと錄さきたり イエス彼ふ曰けるハ主と
世界の諸國とろは榮華とを見せて 尔も一俯伏て我と拜せを此等と恐ふ
んちふ與ふべしと曰 イエス彼ふ曰けるハサタンよ退け主たる爾は神を
拜し惟之ふれを事ふべーと錄さきたり 終ふ惡魔のきと離き天使たち來
り事ふ〇 イエスヨハ子の因き一事を聞てガリラヤふ往 サザレと去せ
ブルンとナフクリとは界ある海邊カペナウンふ至て此ふ居り 古ふを預言

者イザヤ比言ふ 十五 セブルン比地ナフタリ比地海ふ沿さる地ヨルダン比外
比地異邦人いはフジンがリラヤ 十六 此等比幽暗ふどる民之大なる光とみ死地と死蔭
に坐する者比上ふ光いでたり云レ 十七 應せん爲あり○ 斯時よりイエス始
て道と宣傳へ天國アメニ近けり悔改めよと曰ハ 十八 サモヘリ 十九 イエスガリラヤ比海
邊カシマと歩てペテロと云シモンモウ比兄弟アンデレと二人ふて海ふ網うてると
見さり彼等之漁者ウニギハシあり 十九 これに曰けるハ 我ハ 二十 徒ヒタチへ我ハ 二十一 みんぢらと人と漁る者
と爲ん 二十二 彼等やがて網を棄てイエスハ 徒ヒタチ此より進けるハ 又ハ ほろ比兄弟
二人即ちセベダイ比子ヤコブと其兄弟ヨハテ父セベダイと偕ハシメテ舟ボウふて網と
補ツクルへると見て之と召ハスふ 二十三 彼等も頓て舟ボウ父と置てイエスに從ハシメテへり○
三 二十四 イエスカリラヤと徧く巡り其會堂カウドウふて教ハスとあ一天國比福音アメニと宣傳うつ
民ヒト比中ある諸カク病ヤモリもろく比疾ヤモリと醫ハシメテぬ 二十五 聲名ハシメテあまねくスリヤハシメテ广播
りしのを人々そべての患ヤモリへる者萬殊比病ヤモリまさ痛惱ハシメテる者あるひハシメテ鬼ハシメテふ憑ハシメテ
きるも比癪ハシメテ癰ハシメテ瘻ハシメテ比病に罹ハシメテる者と彼に携來ハシメテけ之を醫ハシメテり 二十六 ガリラ

ヤビデガボリスエルサレムユダヤヨルダン比外より多は人々きさり從ハシメテふ
篇五 二 イエス許多ハシメテ人ヒト見て山ふ登り坐志給ハシメテ色ハシメテ弟子等も其下ふ來ハシメテき
リ 三 イエス口と啓ハシメテて彼等ふ教ハシメテへ曰けるハシメテ心比貧ハシメテき者ハシメテ福ハシメテあり天國アメニ即
ち其人ヒトは有ハシメテ色ハシメテ也 四 哀ハシメテむ者ハシメテ福ハシメテなり其人ヒトの安慰ハシメテと得ハシメテべきハシメテ也 五 柔和
ある者ハシメテ福ハシメテあり其人ヒトの地と嗣ハシメテみと得ハシメテべきハシメテ也 六 饑渴ハシメテごとく義と慕
者ハシメテ福ハシメテあり其人ヒトの飽ハシメテみと得ハシメテべきハシメテ也 七 精恤ハシメテある者ハシメテ福ハシメテあり其人ヒトは矜
恤ハシメテと得ハシメテべきハシメテ也 八 心比清き者ハシメテ福ハシメテあり其人ヒトの神と見ハシメテみと得ハシメテべきハシメテ也 九 義との
爲ハシメテふ責ハシメテらるハシメテ者ハシメテ福ハシメテあり天國アメニ即ち其人の有なれを也 十 我ハシメテさめふ人ヒトあん
ぢらを詣ハシメテ詔ハシメテまき迫害ハシメテいつとりて各様の惡言ハシメテをいそん其時の爾曹福ハシメテあり 十一 我ハシメテさめふ人ヒトあん
也 十二 和平と求ハシメテる者ハシメテ福ハシメテあり其人ヒトの神ハシメテと稱ハシメテらる可ハシメテきハシメテ也 十三 義との
喜び樂め天アメニふ於て爾曹ハシメテは報賞ハシメテおやけきハシメテ也 そい爾曹より前ハシメテ預言者ハシメテをも
如ハシメテ此せめさりきハシメテ〇 十四 尔曹ハシメテ地の鹽ハシメテあり鹽ハシメテも其味と失ハシメテく何と以ハシメテる故ハシメテは
味ハシメテふ復ハシメテさん後ハシメテ用ハシメテ一外ふ棄ハシメテらきて人ヒトふ蹤ハシメテるハシメテ而已ハシメテ 十五 尔曹ハシメテ世ハシメテ光ハシメテあり

山の上、ふ建らるゝ城に隠るみどり得ず。燈を燃志て斗は下ふたく者なし燭臺に置て家に在モべて什物と照さん。此れ如く人々は前に爾曹は光と耀かせ然を人々あんちらの善行を見て天に在す爾曹は父と榮べ一〇と也れ律法と預言者と廢る爲ふ來邑りと意ふ勿わき来て之と廢るふ非ざ成就せん爲あり。也れ誠ふ爾曹に告ん天地の盡ざる中ふ律法の一點一盡も逐つくさずして廢るみどるし。是故ふ人も一誠の至微き一と壞り又ろの如く人ふ教ふを天國ふ於て至微き者と謂せん。凡ろ之と行ひ且人ふ教る者ハ天國ふ於て大なる者と謂るべ。我あんちらふ告ん學者とパリサイ比人の義よりも爾曹は義ふと勝ずば必ず天國ふ入ふと能じ。古の人ふ告て殺ふと勿き殺モ者ハ審判ふ干らんと言ふと有ハ爾曹が聞し所あり然ど我あんちらふ告ん凡て故なくて其兄弟を怒る者と審判ふ干らん又ふその兄弟と愚者よといふ者の集議ふ干らん又狂妄よといふ者の地獄の火ある干るべ。是れ故ふ爾曹もし禮物と携へて煙ふ往する時のしあふて兄弟に恨るみどあるを憶起さば。ろは禮物と壇は前ふ留まづ往て爾の兄弟と和ぎ後きよりて爾は禮物と獻よ。爾と訟ふる者と偕ふ途間ふある時そやく和げよ恐く訟る者あんぢと審官に付し審官まさ爾と下吏ふ付し遂ふ爾ハ獄ふ入らん。我まみどふ爾に告ん分贋までも償えざきを必ず其所と出るみと能ざる也。古れ人ふ告て姦淫モるみと勿と言ふとある。爾曹が聞一所あり。然ど我あんちらふ告ん凡う婦を見て色情と起せる。中心すてふ姦淫あさる也。もし右は眼あんぢと罪ふ陥さば抉出して之を棄よ蓋五體は一と失ふ。全身と地獄ふ投入らるゝよりて勝きり。まさ曰るみとあり凡う人ろは妻と出さんと右は手あんぢと罪ふ陥さを之と断て棄よ蓋五體の一と失ふ。全身と地獄ふ投入らるゝよりて勝きり。まさ曰るみとあり凡う人ろは妻と出さんとせを之ふ離縁状と與ふべしと。然ど我爾曹ふ告ん姦淫の故あらで其妻と出ず者ハ之ふ姦淫あさむるあり又出さきさる婦を娶る者も姦淫と行ふあり。まさ古の人ふ告て僞の誓と立るみと勿るあんちら誓ふ所と必ず主

ふ遂べしと言ふるふと有ハ爾曹が聞し所あり 然ど我あんぢらふ告ん更に
 誓ふと勿き天と指て誓ふ勿れ是神の座位みき也 地と指て誓ふこと勿
 こそ神の足凳あるきを也 エルサレムと指て誓ふみと勿みを也 三五
 を也 三六 爾の首と指て誓ふ勿ろは一すちの髪だに白志黒すること能されを
 也 三七 爾曹たゞ是々否々といへ此より過るハ惡より出るあり〇 三八 目にて目
 と償ひ齒ふて齒と償へと言ふるふと有ハ爾曹ヶ聞い所あり 然ど我あんぢ
 らふ告ん惡ふ敵すること勿き人あんぢの右の頬と批を亦ほの頬とも轉
 して之ふ向よ 三九 爾と訟て裏衣と取んとする者ふと外服とも亦とらせよ
 人あんぢふ一里比公役と強ふを之を階ふ二里ゆけ 四〇 爾ふ求る者にハ予へ
 借んとする者と郤くる勿也〇 四一 爾比隣と愛みて其敵と憐べしと言ふる
 ハ爾曹が聞い所あり 四二 然も我あんぢらに告ん爾曹は敵と愛み爾曹と詛ふ
 者と祝し爾曹と憎む者と善視し虐遇迫害ものゝ爲ふ祈禱せよ 四三 如此する
 ハ天ふ在モ爾曹は父は子とあらん爲なり夫天は父ハ其日と善者にも惡者
 と天ふ在モ爾曹は父は子とあらん爲なり夫天は父ハ其日と善者にも惡者

ふも照一雨を義き者ふも義からざる者ふも降せ給へり 四六 爾曹お此をと愛
 せる者と愛せるハ何れ報賞かあらん稅吏も然せざらん乎 四七 安否と兄弟ふ
 のと問ひ人より何の過さる事うあらん稅吏も然せざらん乎 四八 是故ふ天ふ
 在す爾曹は父の完全が如く爾曹も完全をべし

四九 ふんぢら人ふ見せん爲に其義と人は前ふ行ふとと慎も一然す
 を天ふ在す爾曹の父より報賞を得ヒ 二 是故に施濟と行とき人は榮と得ん
 爲ふ會堂や街衢ふて僞善者は如く鑑と己が前ふ吹しむる勿き我まふとに
 尔曹ふ告ん彼等既みろは報賞と得たり 三 あんぢら施濟とをるとき右の手
 の爲ふとと左の手に知その勿き 四 如此するハ其施濟は隠せんが爲みり然
 を隠さるに暨さまふ爾の父ハ明顯ふ報しまふべし〇 五 あんぢる時ふ僞
 善者は如きも勿き彼等は人ふ見らきんが爲ふ會堂や街衢に隅ふ立て祈ふ
 と好ひ是誠ふ爾曹ふ告ん彼等既みろは報賞と得たり 六 なんぢる時
 は嚴密なる室ふいり戸を開て隠微さるふ在モ爾の父ふ祈き然を隠微さる

ふ鑒さまふ爾の父ハ明顯ふ報さまふベー。爾曹斬る時ハ異邦人ハ如く重複語を言ふられ彼等ハ言ふはきを以て聽きんと意へり。是故ふ彼等ふ效こと勿色爾曹の父ハ求ざる先ふ其需用物と知りまへを也。然を爾曹うく祈るべし天ふ在まを我情の父よ願くい爾名と尊崇させ給へ。爾國と臨らせ給へ爾旨の天ふ成おとく地ふも成せ給へ。我情は日用は糧と今日も與さまへ。我情ふ罪と犯を者と我ゆるを如く我情の罪とも免さまへ。我情と試探ふ遇せず惡より拯出し給へ國と權と榮と爾の窮あく有さまふ所ありアーメン。爾曹も一人は罪と免さを天ふ在まを爾曹の父も亦あんぢらと免一給はん。然ども一人は罪と免さずを爾曹は父も爾曹の罪と免一給はざるべし〇。あんぢら斷食モるとき偽善者れ如き憂容とせる勿れ彼等は斷食と人ふ見ん爲ふ顔色と捐ふ我まことに爾曹ふ告ん彼等既ふ其報賞と得たり。あんち断食モる時は首ふ膏とぬり面を洗へ。如此するハ爾の断食人ふ見すして隱微さるふ在す爾の父ふ現れんが爲ふり然を隱微

さるふ鹽さまふ爾の父は明顯ふ報さまふベー〇。臺くひ鏡くさり盜うがちて竊む所の地ふ財を蓄ふること勿れ。盜くひ錫くさり盜穿て竊ざる所の天ふ財と蓄ふべー。蓋あんぢら財は在とふろふ心も亦ある可きを也〇三身は光の目あり若あんぢの目瞭のあらを全身も亦明るべー。若あんぢの目眊らば全身暗るべー。是故ふ爾の中の光も一暗うらを其暗ふと知何ふ大ふらず乎。人ハ二人の主ふ事るみと能ず蓋ふと惡のと愛と此と親と彼と疎べけき也。あんぢら神と財ふ兼事るみと能はず。是故ふ我るんぢらふ告ん生命の爲ふ何を食ひ何と飲ま。身體は爲に何と衣。人と憂慮ふと勿色生命の糧より優り身體の衣よりも優色る者あらず乎。あんぢら天空の鳥を見よ稼みと爲す倉ふ蓄ふるみとある。然るふ爾曹は天比父之と義ひ給へり爾曹之よりも大ふ勝るゝ者あらず乎。三思のうち誰り能ひもひ煩ひて其生命とす陰も延得んや。まさか何故ふ衣のみと思ひづらふや野の百合花は如何見て長うと思へ勞す紡がさる也。忍

爾曹ふ告んソロモノの榮華は極に時だふも其裝ふの花の一に及さりき
神ハ今日野ふ在て明日爐ふ投入らるゝ草とも如此よろはせ給へを況て爾
曹トや嗚呼信仰うモキ者よ然を何と食ひ何と飲なふと衣んとて思ひづ
らふ勿色此みる異邦人の求る者あり爾曹の天の父ハ凡て此等れもれす
必需ふとを知りまへり爾曹まづ神は國と其義とと余よ然を此等のも
比ハ皆みんちらふ加らるべ是故ふ明日は事と憂慮あられ明日は明
日の事と思ひづらへ一日は苦勞ハ一日ふて足を

人ハ罪と定ること勿れ恐くハ爾曹も亦罪ふ定らきん爾曹が人ハ罪
を定る如く己が罪とも定らるべ爾曹が人を量おどく己も量らるべ
あんぢ兄弟は目ふある物屑を視て己が目ふある梁木と知ざるハ何ぞや
己は目ふ梁木はあるふ如何で兄弟ふ對て爾が目ふある梁木を我ふ取せよと
曰ふとを得んや僞善者よ先あはれ色比目より梁木を乞ひ然を兄弟は目よ
ア物屑を取得るやう明るふ見べー犬ふ聖物と與ふる勿まさ豕は前ふ爾

曹ハ眞珠と投與る勿れ恐くハ足ふて之と蹠ふりのへりて爾曹と嗤やぶらん
求よ然を與られ尋よ然をあひ門と叩よ然を開ふふよことと得ん蓋す
べて求る者ハ元尋る者ハあひ門を叩く者ハ開ふ可乞をあり爾曹ヒう
ち誰ク其子パンと求んに石と予んやまさ魚と求んふ蛇と予んや然を
爾曹惡き者あがら善賜と其子ふ與ふると知ま一て天ふ在す爾曹ヒ父ハ求る
者ふ善物と予ざらん乎是故ふ凡て人ふ爲らきんと欲みどハ爾まさ人に
も其おとく爲よ是律法と預言者ある也○窄き門より入よ沈淪ふ至る路ハ
闊くハ門ハ大あり此より入もの多一生涯ふ至る路ハ窄ろハ門ハ小一其路
と得もれ少あり○僞ハ預言者と謹めよ彼等ハ綿羊は姿ふて爾曹ふ來きど
も内ハ狼あり是ろ比果ふ由て知べし誰の荆棘より葡萄とどり蒺藜よ
り無花果を探ことせん凡て善樹ハ善果を結び惡樹ハ惡果と結べり
善樹ハ惡果と結せず惡樹ハ善果と結ぶふと能ざる也凡る善果と結ざる
樹ハ研きて火ふ投入らる是故ふ其果ふ由て之を知べー○我と召て

生よ主よと曰もは盡く天國ふ入ふ非す唯こゑふ入者の我天又在す父れ旨
ふ遵ふ者にえ也。其日旦をふ語て主よ主よ主に名ふ託てとしへ主に名ふ
記て鬼とあひ主に名ふ託て多く異能と行為ふ非すやと云もは多うらん
其時からわ告を嘗て爾曹と知す惡とみす者よ我と離去と曰ん。是故
ふ凡て我こゑ言と聽て行ふ者と撃て上ふ家と建さる智人ふ譬ん。雨ふり
大水いで風ふきて其家と撞せも倒るふとみし是勢と基礎と爲さを也。
さて我こゑ言を聽て行こざる者と沙の上ふ家と建たる愚ふる人ふ譬ん。元
雨ふり大水いで風ふきて其家と撞せ終ふり倒てその傾覆ふほいあり。イ
エス此等の言と語竟まへるとき集りくる人々の教を駆きあへり。そ
れ學者の如あらず權威と有る者れ如く教たまへを也。

第八章 イエス山と下ろしき多は人々みをふ従へり。癪病は者きたり拜志
て曰ける。主もし旨ふ達どき。我と潔ふし得べし。イエス手と伸のきふ
按て我旨み達へり潔ふきと曰け。我病たむちよ潔きり。イエス彼ふ曰け

るれ憤て人に告る勿を唯ゆきて己と祭司ふ見せ且モ一セが命ぜ。禮物と
試て彼等ふ證據とせよ。イエスカベナウンふ入しとき百夫は長きさり
頤て曰ける。主よ我僕癪病とやみ家ふ臥みて甚だ惱めり。イエス曰け
ふれ我ゆきて之と醫モベ。百夫は長ことへける。主よ我あんちと我が屋
下ふ入奉る。恐色多一唯一言と出一給ひを我僕の愈ん。蓋旦を人ふ權威。
は下母ある者ふふ我下に亦兵卒ありて此ふ往と曰ゆき彼ふ來と曰
を來る我僕ふ此と行と曰を則ち行が故あり。イエスみをと聞て奇を從へ
る人々に曰ける。我まふとふ爾曹ふ告んイスラエルは中ふだふ赤だ斯る
篤信ふ遇ざる也。已れ爾曹ふ告ん多は人々東より西より来てアブラハム
イサクヤコブと偕ふ天國ふ坐。國は諸子を外は幽暗ふ逐出され其處ふ
て哀哭切歎するふと有ん。イエス百夫は長に往ふんぢタ信仰比如く爾に成
べしと曰さまへる其時に僕の愈さり。イエスベテロは家ふ入そは岳母
は熱と煩ひ臥みたるを見て。それ手に搾け色を即ち熱されり婦ふきて彼

等ふ事ふ 日暮たるとき人々鬼ふ憑きる者と多く携來けをイエス言にて鬼と逐出へ病ある者と悉く醫せり 預言者イザヤふ托て自ら我儕は恙と受且きらば病と負と曰さまひしふ應せんが爲ふり○ 儒イエス多は人々は己と環ると見て弟子に命じ向は岸ふ往んと志給し ある學者きたりて曰けるハ師よ何處へ往給ふとも我從そん イエス之に曰ける之狐ハ穴あり天空は鳥の巣あり然世人子の枕せる所あり まさ弟子は一人いひけるハ主よ先ゆきて父と葬ることと我ふ容せ 三 イエス曰けるハ我ふ從へ死さる者に其死し者と葬らせよ○ 三 イエス舟ふ燈けを弟子等も之ふ従ふ 此とき大ある颶風おこりて舟と藏をうりある浪さちし ふイエスは寝さり 弟子等こゑふ近きて醒し曰けるハ主よ救たまへ我儕死んとモイエス彼等ふ曰けるハ信仰うそき者よ何ぞ懼るや遂に起て風と海と斥けれを大ふ平息ふありぬ 人々奇みて曰けるハ此如何ゐる人ぞ風も海も立ふ從ひたり○ 二八 イエス向は岸あるカダラ人に地に至くるとき鬼ふ憑きる

きさる二人れらの墓より出て彼と迎ふ猛こと甚しくして其途と人過ること能之ざり一ほゞ也 うきら呼呼て曰けるハ神は子イエスよ我儕あんちと何れ與あらん乎いまだ時いさらさるふ我儕と貴んじて此處に来るる遙てあきて豕は多乃むき食し居けを 三 兔イエスふ求て曰けるハ若旦色らを逐出さんとあらを豕の革ふ入ることと容せ 三 彼等に往と曰け色を鬼いで、豕の革ふ入へふ惣はむき山坡より逸て海あいり水ふ死なり 三 牧者ども邑ふ逃走て此事を鬼ふ憑れたり者れ事と告げを 三 イエスふ逢んとて邑は者舉て出きたり彼と見て此境と出んことと願へり人々昇來色々イエス彼等が信ずると見て癱瘍は者ふ曰けるこそよ心安のれ爾は罪赦をさり 三 ある學者だち心の中ふ謂ける之此人ハ褻瀆と言リイエスろれ意と知て曰ける之兩曹いかあるを心ふ惡と懷ふや 肴は罪數さきよりと言と起て歩めと言と孰る易色 ろき人の子地ふて罪と歎すは

權あることと爾曹に知せんとして遂に癱瘓れ者に起て床となり家ふ歸色と曰けれど起て其家ふ歸りぬ人々こそ見て奇と此の如き權と人ふ賜し神と崇さり○イエス此より進往マタイと名くる人は税關ふ坐し居けると見て我ふ從へと曰けを起て從へり+イエス彼が家ふ食するとき税吏罪ある人おほく来てイエス及そは弟子と偕ふ坐しけを+パリサイの人をを見て其弟子ふ曰けるは爾曹は師之何故稅吏や罪ある人と偕ふ食せる乎+イエス聞いて彼等ふ曰けるも康強ある者は醫者と助と需す唯病ある者こそと需+され矜恤と欲て祭祀と欲すといふ此は如何ある意の往て學其時ニハ子は弟子イエスふ來て曰ける+我憤とベリサイの人之志をぐぶべー夫尼が来るは義人と招きめふ非ず罪ある人と招きて悔改せんと爲あり○断食するふ師は弟子の断食せざる何故ぞ+イエス彼等ふ曰ける+新郎の友+け新郎と偕に居うちは哀むことと得んや將來新郎をひきとらるる日まかりと新郎をへきも+新き布と以て舊き衣と補ふ者はあ

らじ蓋つくろふ所れもの反て之と壊ろれ綻び尤も甚だからん+まさ新き酒と舊き革囊に盛る者はあらじ若あるせを囊とりさて酒もれいで其囊も亦壊らん新囊ふ新酒と盛なを兩ながら存べー○+イエス彼等ふ此事と言る時ある宰きより拜して曰けるは我女いま既ふ死り来て彼ふ手と按さまそ生べー+イエス起て彼ふ從ひ其弟子と偕ふ往ニ+十二年血漏を患へる婦うろふ来て其衣は襟ふ捫れ+蓋も一衣ふだふも捫らを愈んと意へをありミイエスふりのへり婦と見て曰ける+女よ心安か是の信仰ふんちと愈せり即ち婦ふれ時より愈+イエス宰は家ふ入りふ笛ふく者ふび多の人は泣號と見て之ふ曰けるは退け女ひ死るふ非ずさと寢さるのみ人々イエスと哂笑ふ+彼等と出一後いりて其手を執しふ女起さり+この聲名あはれく其地ふ播りぬ+イエス此を去をき二人は醫者志さがひて呼いひける+ダビデは育よ我儕と憐み給へ+イエス家に入ふ醫者きさとけ色を彼等ふ曰さまひけると我ふれ事と行得ると信するや答けるは主よ

然り ^{二九} イエス彼等は目ふ手と接て爾曹は信する如く爾曹ふ成べしと曰け
 き也 ^{三十} 其目ひらけたりイエス嚴く戒て之ふ曰けるハ慎て人ふ知る勿れ
 三然ども彼等いでゝ遍く其地ふイエスは名と播めたり○ 諸者は出るど
 き人々鬼ふ懼れさる暗啞とイエスふ携來りしに 鬼おひいださきて暗啞
 ものいへり衆人あやしと曰けるハイステエルは中ふも未だ斯る事は見ざ
 りき ^{三〇} パリサイは人いひける之彼鬼は王ふ籍て鬼と逐出せる也○ イエ
 ス遍く鄉邑と廻せば會堂みて教とある天國の福音を宣傳へ民は中ゐる諸
 は病すべては疾と愈せり 牧者なき羊は如く衆人ふやミ又流離ふなり
 故ふ之と見て憫みさまふ 其とき弟子等ふ曰給けるハ收稼え多く工人と
 少一 ^{三一} 故に其稼主ふ工人と收稼場ふ送んふと願ふべし
 儀 ^{三二} 俗イエスその十二弟子と召彼等ふ汚たる鬼を逐出名又すべての
 病すべては疾と醫す權と賜へり = そは十二使徒は名と左は如志首ふハヘ
 テロと召け給ひシモソそれ兄弟アンテレセベダイハ子ヤコブそれ兄弟
 異邦に途ふ往ふるを又サマリア人比邑ふも入ふるを 惟イステエルは家の
 ちイエスと賣志、者あり○ ^{三三} イエスこは十二と遣さんとて命じ曰けるハ
 遠へる羊ふ往 往て天國近ふ在と宣傳よ 病れ者と醫し癪病と潔し死た
 る者と甦らせ鬼と逐出すこととせよ爾曹價あしむ受さきを亦價みしむ施
 すべし 尔曹金まさり銀まさり錢と貯へ帶る勿き 行囊二は裏衣履杖も亦
 然そり工人比其食物と得れ宜あり ^{三四} 凡そ鄉邑ふ至らバ其中は好人と訪て
 出るまで其處ふ留ミ 人比家ふいらむ其平安と問 そ乃家もし平安と
 得べき者あらむ爾曹の願ふ平安は其家ふ至らん若し平安と受べらざる者
 あらむ爾曹乃願ふ平安は爾曹ふ歸るべし もし爾曹と接す爾曹の言と聽
 き者あらむ其家まさり其邑と去とき足は塵と拂へ ^{三五} わを誠ふ爾曹ふ告
 ん審判は日到らバソドムとゴモラは地ハ此邑よりも却て易らん○ ^{三六} わ

色爾曹おのと遣送す。羊ひつじと狼オオカミは中なかへ入いるが如ごし。故ゆゑふ蛇ヘビは如ごく智ハキく鶴トリは如ごく馴ハシマ真マサニ。或もつて人ひとふ戒ケイ心こころせよ。蓋カバ人ひとあんぢらと集議所シラムシロを解ハラフし、又そ乃の會堂カイドウにて轍カスガつべきを也也。又わが緣ゆゑ故ゆゑふ因ヨリて侯伯ヲラあよび王ワラは前まへふ曳ハシマるべし。是コレの色いろらと異邦人ヨリヒンふ證アカシどみさんが爲ハムり。人ひとあんぢらと解ハラフさを如何いかにあるふと言いんと思ハグひ煩ハラハラらふ勿ハラハラれ其そのとき言いべき事ことは爾おの曹わがわふ賜タマハシるべし。是コレあんぢら自ソラら言いふ非ハルず爾おの曹わがわは父ちちは靈アマツそは裏うらふ在あて言いあり。兄弟エコノミの兄弟エコノミと死マタタキふ付ハタフし父ちちの子こと付ハタフし子こと兩親アタガヤと訴ハタフへ且マタタキこきと殺ハラハラさしむべし。又あんぢら我わが名なは爲ハムふ凡ハラハラれ入ハシマふ慎ハシマさん然ハシマ終ハシマまで忍ハシマぶ者は救ハシマはるべし。己ハシマは邑ハシマふて人ひとあんぢらと責ハシマめを他ハサは邑ハシマふ逃ハシマよ我わがまことふ爾おの曹わがわふ告ハシマん爾おの曹わがわイスラエルハシマは諸ハラハラ邑ハシマと廻ハシマ盡ハシマさざる間ハシマふ人の子こ來ハシマるべし。弟子ハシマと師ハシマより優ハシマらす僕ハシマの其その主じより優ハシマらざる也也。弟子ハシマの其その師ハシマの如ハシマく僕ハシマの其その主じの如ハシマならば足ハシマぬべー。若ハシマし八ハシマ主じと呼ハシマてベルセブルハシマと云ハシマバ。況ハシマて其その家ハシマは者ハシマとや。是ハシマ故ハシマふ彼ハシマ等ハシマを懼ハシマるよハシマと勿ハシマろハシマの掩ハシマ色ハシマて露ハシマきする者ハシマるく隠ハシマて知ハシマきする者ハシマなけハシマバ也也。見ハシマき幽暗ハシマる於ハシマて爾おの曹わがわふ告ハシマ一ハシマよ。

と光明ふ述よ耳とつけて聽一ことと屋上ふ宣播めよ
身と殺して魂と殺すふと能ひさる者と懼るよ勿見唯ふんぢら魂と身と地獄ふ滅し得る者
と懼れよ二羽の雀ハ一錢ふて售ふ非ずや然るふ爾曹は父の許あくを其
一羽も地ふ隕ること有じ爾曹の頭に髪まさ智のぞへらる故ふ懼るよ
勿見爾曹ハ多は雀よりも便色り然を凡ろ人比前ふ我と識と言ん者と我
も亦天ふ在す吾父は前ふ之を識と言ん人の前ふ我と識と言ん者と我
も亦天ふ在す吾父の前ふ之を識ずと言べし。地ふ泰平と出さん爲ふ我來
れりと意ふる色泰平と出さんとみ非ず刃と出さん爲ふ來色也夫已お來
るハ人と其父ふ背うせ女と其母ふ背うせ娘と其姑ふ背うせんが爲あり
人の敵其家の者あるべー我よりも父母と愛む者の我ふ協ざる者あり
我よりも子女と愛む者の我ふ協ざる者ありろの十字架と任て我ふ從と
ざる者も我ふ協ざる者ありろの生命と得る者之と失ひ我さめふ生命
と失ふ者い之と得べー爾曹と接る者と我と接る也まさ我と接る者と我と

遣しゝ者と接るあり。預言者あると以ろは預言者と接る者の預言者の報賞をうけ義人あると以ろは義人と接る者と義人は報賞と受。且が弟子あるともて小き一人比者ふ冷ある水一杯ふても飲する者の誠ふ爾曹ふ告ん必ず其報賞と失じ。

第十一章 イエスそに十二弟子ふ示畢あと此處とさり道と教へ廣んが爲ふ彼等は諸邑ふ往す。惜ニハチ獄ふてキリストは行し業と聞ろは弟子二人と彼ふ遣して曰せけるい來べき者ハ爾あるう又わざら他ふ待べき乎。イエス彼等ふ答て曰けるハ爾曹が聞こふろ見こふろは事とヨハテふ往て告よ。瞽者ハみ跛者ハあゆミ瘧病人ハ潔まり聾者ハき死する者ハ復活させ貧者ハ福音と聞せらる。凡ろ我ためふ蹠うざる者ハ福音す。

彼等は歸色る後イエスヨハ子は事と人々ふ曰けるハ爾曹何と見んとて野ふ出一や風に動さるゝ葦ある乎。然バ爾曹何と見んとて出一や美服を着さ5人ふるう美服を着たる者ハ王宮に在。然を何と見んとて出一や預言

者ある。然已を爾曹ふ告ん彼ハ預言者よ里も卓越たる者あり。夫ふんちに先ちて道と備る我が使者を我ふんちは前ふ遣んと錄さざるハ即ち是あり。誠ふ爾曹ふ告ん婦は生さる者の中いまだハブテスマのヨハチより大なる者ハ起らざりき然ど天國は最小き者も彼よりハ大なる也。ハブテスマハヨハチ比時より今ふ至るまで人々勵て天國を取んとす勵さる者ハ之と取りうち凡は預言者と律法は預言あたるハテ比時まであ色ほ也。若みんちら我言と承ふことと好まを來べきエリヤハ是あり。耳ありて聽ゆる者之聽べし。我ふは世と何ふ譬んや童子街ふ坐し其侶と呼てセ召色ら笛ふけども爾曹おぞらず哀とを乞ごと爾曹胸うさすと云ふ似たり。蓋ハテ來て食ふふと飲ことと爲さ乞と鬼ふ憑きむる者ありと人々言り人比子きさりて食ふふとを一飲ふと爲乞と爲乞を灭食と嗜ミ酒と好む人税吏罪ある者は友ありといふ然ども智慧ハ智慧ハ子ふ義と爲らるゝ也。厥時イニス多の異能と行たまひかる諸邑は悔改めざるふ由て責いひける

わよ禍ある哉コラジンよ噫禍ある哉ベツサイダよ爾曹は中行志異能を若ツロミシドンふ行しゐらを彼等は早く麻をき灰と蒙りて悔改し
ゐるべ一已を爾曹ふ告ん審判の口ふれツロミシドンは刑罰の爾曹より
はつて易らん既ふ天ふまで舉らきレカベナウンよ又陰府ふ落さるべ
志藍あんぢらふ行一異能と若ツドムふ行しゐらを今日までも尙保存一
あらん我あんぢらふ告ん審判は日ふソドムは地の爾曹よりも却て易る
るべ一〇其にきイエス答て曰けるハ天地は主なる父よ此事と智者達者
ふ隠一て赤子ふ顯したまふと謝す父よ然そ此は如は聖旨ふ適るあり
三七父ハ我に萬物と予さまへり父は外ふ子と識もは無まさ子および子は顯
す所れ者以外ふ父と隠者の一〇凡て勞かる者まさ重と負る者の我ふ來
色我ふんぢらヒ息せん我之心柔和ふして謙遜者あ色バ我輒と負て我
ふ學るんぢら心ふ平安と穏べ一蓋己が輒ハ易己が荷ハ輕け色バ也
ふ學るんぢら心ふ平安と穏べ一蓋己が輒ハ易己が荷ハ輕け色バ也

さり バリサイは人を見てイエスが曰ける。爾の弟子ハ安息日を爲
まじき事と行り 之を答けるハダビテおよび從ふ在し者に饗しつき行
事と未だ讀ざる乎 即ち神は殿ふ入て祭司は他人已および從ふをる者も
食ふまじき供のパンと食へり まさ安息日 お祭司の殿は内にて安息日と
犯せども罪なき事と律法ふ於て讀ざる乎 わき爾曹ふ告ん殿より大る
もれ茲ふ在 わき矜恤と欲て祭祀と欲すとい如何あることう之と知を罪
あき者と罪せざるべ そき人れ子ハ安息日は主たるあり〇 此と去て
彼等は倉堂ふ入し 一手ふへさる人ありけりを彼等イエスと訴へんと
て之を問けるハ安息日ふひ醫そことと行べき乎 彼等が曰けるハ爾曹の
中ふ一は羊と有る者あらんふ若そは羊安息日ふ坑ふ陥しを之と掣上ざる
乎 人ハ羊より優ること幾何ぞや然を安息日ふ善と行へ宜遂ふろば人
ふ爾が手と伸よと曰けきを伸せり即ち他は手は如く愈 十四 バリサイは人の
でヨイエスと殺さんと謀り イエス之と知て此と去ふ多は人々みを

ふ從ふ凡て疾病ある者ども愈一我と人ふ露をみと勿色と戒さり
色預言者イザヤは云一言ふ視よ我が選一我僕もみどち我心ふ適さる我
が愛む者わを之ふ我靈と賦へん彼異邦人ふ道と示をべし彼の競ことあ
く喧ことあし人街ふ於て其聲と聞ことあし眞道と一て勝とげ一むるま
でぞ傷る葦と折ふとあく煙見る麻と燒ふとあし異邦人も亦そに名ふ頼
べーと有ふ應せん爲あり○爰ふ鬼ふ憑たる善比瘡ある者とイエスは所
ふ携來りけを此善比瘡と醫して言ひ見るやうふ爲り衆人見る奇みて
曰けるハ此ハダビデの裔ふハ非ざる乎云バリサイは人きよて曰けるハ此
人之鬼は王ベルセブルと役ふふ非ざるを鬼と逐出ふとる三イエスろは
意と知て彼等ふ曰けるハ凡て相争ふ國ハ亡び凡て相争ふ邑や家ハ立べる
らずサタン若サタンヒ逐出さを自ら相争ふより然を其國いうで立んや
モ若厄れベルセブルふ由て惡鬼と逐出さを爾曹の子弟ハ誰ふ由て之ヒ逐
出すや夫のきらハ爾曹のみ裁判人とあるベ一若厄神は靈ふ由て鬼と逐
出

出焉よりあらを神れ國のもとや爾曹ふ至れりまさ勇士とまづ縛らざきを如
何で其家ふ入ろヒ家具と奪ふふどと得んや縛て後ふ其家と奪ふべし三我
と偕ふらざる者は我ふ背き我と偕ふ歟ざる者と散もふり是故ふ爾曹ふ
告ん人々ハ凡て犯モ所比罪と神と瀆ことと歎きん然ど人々ハ聖靈と瀆ふ
とぞ歎るべうらず言ヒ以て人ハ子ふ背く者と歎るべし然ど言ヒもて聖
靈ふ背く者ハ今世ふ於ても亦來世ふ於ても敵るべうらす或は樹とも善
とし其果とも善とせよ或は樹とも惡とし其果とも惡とせよ夫樹は其果ふ
由て知るよ也三あゝ峻ヒ裔よ爾曹惡ふして何て善と言ふと得んや夫心
ふ充るよと口ふ言るよ者なれを也善人は心は善庫よと善もヒと出し惡
人はろは惡庫よと惡もヒと出せり三急き爾曹ふ告ん凡て人ハいふ所は虛
言ヒ審判は日ふ之ヒ訴へざると得じ三ろき爾そヒ曰とみろヒ言ふ由て義
とせらき又其いふ言ふ由て罪ありとせらるよ也○此時ある學者とパリサ
イ乃人答て曰ける之師よ休徵ヒとして我憤ふ見せんふと爾ふ請ふ三答て

彼等ふ曰けるハ奸惡ある世は休徵を求さセギ預言者ヨナハ休徵以外之
ふ休徵ヒ與らセヒ夫ヨナが三日三夜魚肚腹に中ふ在し如く人子も三
日三夜地の中ふ在ベシニ子べの人審判の日ふ共ふ起て今世の罪と定
めん彼等之ヨナの誨ふ由て悔改ヒリ夫ヨナより大なる者こゝふ在
姫王さを色の日ふ共ふ起て今世の罪と定めん彼之地の極よりソロモン
の智慧ヒ聽んとて來色り夫ソロモンより大なるもの此ふあり惡鬼人よ
り出で早さる地ヒ巡り安息ヒ求色ども得すして曰けるハ我が出し家ふ
歸らん既ふ來しふ空虚ふして掃淨り飾くるヒ見遂ふ往て己よりも惡き
七の惡鬼ヒ携へ偕ふ入て此ふ居バその人の後の患狀之前よりも更ふ惡る
べし此あしき世もまさ此の如ならんイエス人々ふ語ヒる聴ろの母ヒ兄弟
弟ウニ言之んとて外ふ立て色バ或人イエスふ曰けるモ爾の母ヒ兄弟
あんちふ言之んとて外ふ立て兄弟告し者ふ答て曰けるモ我母之
歸そ我兄弟は誰ぞヤ是手ヒ仰るの弟子ヒ指て日けるハ是日が母日が兄弟
なり蓋モべて我が天ふ在モ父の旨ヒ行ふ者は是日が兄弟日が姊妹わが
母あきバ也

第十三章 この日イエス出て海邊ふ坐せ一ふ多は人々彼ふ集り來け色バ
イエス之舟ふ登て坐し凡は人々ヒ岸ふ立リニイエス譬ヒ以て多端ヒ言
ヒ人々ふ語ぬ種まく者播ふ出一が播るとき路ヒ旁ふ遣一種あり空中の
鳥きたりて啄ミ盡せりまた士うすき磽地ふ遣一種あり直ふ萌出さき
日は出一とき灼色の根あきが故ふ槁さりセまさ棘ヒ中ふ遣一種あ
り棘うだちて之ヒ蔽げりまさ沃壤ふ遺一種あり實ヒ結べるふヒ或之百
倍あるひ六十倍あるひ三十倍せり耳ありて聽ゆる者ヒ聽ベ一
子等きさりて彼ふ曰けるヒ何故ふ譬ヒもて彼等ふ語り給ふや答て曰け
るモ爾曹ふ之天國ヒ與義ヒ知みヒ予さまへご彼等ふ之予へ給ざセバ
ろき有る者ヒ予らせてるは餘あり無有者之うの有る物とも奪る、也
等之視ても見ず聽ても聞す悟ざるが故ふ我譬ヒ以て彼等ふ語色りイザ

ヤハ預言ふ爾之聽ごも悟らす視ごも見ず蓋ふの民目みて見耳ふてきよ
心ふて悟り改めて我ふ醫さきんみこと恐ろは心と頑一耳と蔽ひ目と閉たり
と云ふ應なり然ぞ爾曹の目之見爾曹の耳之聞が故ふ福あり厄れ誠
ふ爾曹ふ告ん多の預言者と義人之爾曹が見とふろと見んと志たりが見
ふとど得ず爾曹が聞とふろと聞んと志よりが聞ふとど得ざりき故ふ
爾曹播種の譬と聽天國の教と聞いて悟らざば惡鬼きさりて其心ふ播き
たる種と奪ふ是路の旁ふ播さる種なり穠地ふ播せたる種は是教と聽て
速りふ喜び受きども己ふ根ふけをバ暫時のみ教の爲ふ患難あるひと迫ら
事の起る時忽ち道ふ礙く者なりまさ隸の中ふ播れる種は是教と聽
る、事の起る時忽ち道ふ礙く者なりまさ隸の中ふ播れる種は是教と聽
せも此世の思慮と貨財の惑ふ教と蔽きて實らざる者あり沃壤ふ播れさ
る種は是教と聽て悟り實と結みと或ひ百倍あるひ六十倍あるひ三十
倍する者あり○まさ譬と彼等ふ示して曰ける天國の人畑ふ美種と播
ふ畠さり人々の寝ざる間ふ其敵きさり麥の中ふ稗子と播て去り苗と
い出て實さるとき稗子も現れさり主人の僕きさりて曰ける主よ畑
よハ美種と播ざりしる如何して稗子ある乎僕ふ曰ける敵人ふきと行
り僕主人ふ曰ける然らバ我儕ゆきて之と拔あつむる宜う否あろら
くハ爾曹稗子と拔あつめんとて麥とも共ふ抜べし收穫まで二あがら長お
け我ありいきの時まづ稗子と拔あつめて焚ん爲ふ之と東ね麥とバ我が倉
ふ收よと言ん○まさ譬と彼等ふ示し曰ける天國の芥種の如し人ふき
と取て畑ふ播バ萬の種よりハ小けをせも長てハ他の草より大ふして天
空の鳥きさり其枝ふ宿ほせの樹とある也○また譬と彼等ふ語ける天
國の麴酵の如一婦ふきとどり三斗の粉の中ふ藏せば悪く脹發する
エス譬をもて凡て此等の事と衆人ふ語きまへり譬ふあらざきバ語り給
す云ふ乞預言者ふ託て我譬と設て口と啓き世の始より隱さる事と言出さ
んと云れさるふ應せん爲あり○遂にイエス衆人と歸して室ふ入り其弟子
きさりて曰ける畑の稗子の譬と我儕ふ解きまへ之ふ答て曰ける美

種と播者ひ人の子あり 煙ひこの世界あり美種ひ是天國の諸子あり稗子
ハ惡魔の子類なり 三五之とまく敵ハ惡魔あり收穫ハ世の末あり刈者ハ天の使者
等あり 四十稗子の歎て火ふ焚る 如く此世の末ふ於ても此の如くあるべ
人の子ろの使者だちと遣して其國の中より凡て蹠礙となる者まさ悪と
す人と敵て 四二之と爐の火ふ投入べし其處ふて哀哭切齒するふと有ん 此
とき義人ハ其父の國ふ於て曰の如く輝かん耳ありて聽ゆる者ハ聽べし
四三まさ天國ハ烟ふ藏たる寶の如し人みいださバ之と秘し喜び歸り其所有
と盡く賣てうの烟を買あり○ 五五また天國ハ好眞珠と求んとする商人の如
し一の值たるき眞珠と見出さばうの所有と盡く賣て之を買あり○ 五七
た天國ハ海ふ投て各様の魚とどる網の如し 既ふ盈れバ岸ふ曳あげ坐て
ろの嘉ものと器ふいれ惡ものと棄るあり 五九世の末ふ於ても此の如あらん
天の使等いで 三義者の中より惡者を取りけ 之を爐の火ふ投入べし其處
ふて哀哭切齒するふと有ん○ 五一イエス彼等の日けるハ此事をも詰しや彼
はアブテスマのヨハネヘロデイエスは聲名を聞て その僕又曰けるハ
是バアブテスマのヨハネアリ彼死より甦りたり故又異なる能と此ふ行給ハざりき
ムヘロデアリ兄弟ビリボの妻ヘロデヤハ事よりヨハネと捕へ縛て獄入
り 五八此ハヨハネヘロデふ此婦と娶るハ宜しらばと云志又因彼ヨハネ
と殺さんと欲民ふと預言者とぞるより彼等と懼り一がヘロデ

誕生^{たんじやう}は日^ひと祝^{いわ}へる時^{とき}ヘロデヤの女ろの座上^{ざすわ}よて舞^{まい}とふ一^一ヘロデ^トと悦^えをせ
け色^{いろ}バ 何^{なに}ある物^{もの}よても求^め任^むて予んとヘロデ之^のよ誓^{ちかひ}さり 女^{めの}そは母^{はは}
勸^{すすめ}ありしよ因^{より}バアテスマニヨハ子の首^{くび}と盆^{はん}よ載^{のせ}て此^こよ賜^{たまは}れと曰^{いふ}王憂^{うれ}け
れども既^{すでに}誓^{ちかひ}ると席^{せき}よ列^{はしら}色^{いろ}る者の爲^{ため}よ予^{あたへ}るふと命^{めい}じ 即^{すなは}ち人^{ひと}と遣^{おと}一
獄^{ごく}よ於^てヨハ子の首^{くび}と斬^{さな}せ サロヒ首^{くび}と盆^{はん}よ載^{のせ}て女^{めの}よけれバ女^{めの}い之^のとろ
の母^{はは}よ捧^{さげ}さり ヨハ子は弟子^{だいし}等^らきたりて屍^{しかばね}と取^{とり}み色^{いろ}と葬^{はうむ}り往^{ゆき}てイエス^ス
告^ごイエス^スこきと聞^きて人^{ひと}とさけ舟^{ふね}よ登^のて其處^{そのところ}と去^さび^一き處^{ところ}よ往^く給^ひ一^が衆^{こう}
人^{ひと}きよて歩^か行^はよて彼^{かれ}よ從^{なたは}へり〇 イエス^ス出^で多^{おほ}の入^{ひと}よ見^{みて}て之^のと憫^{あわれ}ミ其病^{その病}
る者^{ひと}と醫^{いぢ}せり 日^ひくるよ時ろ^うは弟子^{だいし}きさりて曰^いけるハ此^この寂寃^{しじみ}とてろよ
志^{おも}て時^{とき}もはや遅^{おく}し諸邑^{ちよく}よ往^くて自^じら食^くと求^めせん爲^{ため}よ人々^{ひとびと}と去^さしめよ イ
エス^ス彼^{かれ}等^らよ曰^いけるハ人々往^くすとも可^かんぢら之^の食^くと予^{あたへ}よ 答^{こたへ}けるハ我^わ
債^{さい}此^こよさ^一五^ごのパン^{ぱん}と二^にの魚^{うお}あるのミ イエス^ス曰^いけるハ其^{その}と此^こよ携^{さげ}來^き オ
遂^とよ衆^{こう}人^{ひと}よ命^{めい}じて坐^{すわ}一^一め五^ごのパン^{ぱん}と二^にの魚^{うお}とぞり天^{あま}と仰^{あお}て謝^{あや}一^一パン^{ぱん}と擧^{あわ}て弟^{わい}

子^こよあ^さふ弟子^{だいし}み^こと衆^{こう}人^{ひと}よ予^{あたへ}ぬ ミ^こみ^くる食^くて飽^{あま}その餘^{あま}さる屑^{くず}と拾^{あつ}しよ十
二^{じふ}の籃^{かご}よ盈^{あふ}さり 食^く一^一者^{ひと}の婦^{ふくわ}と幼童^{こども}の外^{ほか}おほよろ五千人^{五千人}あてき〇 三^{さん}頤^ひて
イエス^ス衆^{こう}人^{ひと}と歸^{かへ}さんとて其^{その}弟子^{だいし}と強^{つよ}て舟^{ふね}よせ向^{むか}の岸^{きし}へ先^{まへ}よ渡^{わた}一^一む
斯^すて衆^{こう}人^{ひと}と歸^{かへ}一^一け色^{いろ}バ新^{しん}禱^{とう}せんとて密^{ひそか}み山^{さん}よ上^{あが}り日^ひくきて獨^{ひとり}ろこ^こよ在^いせ
四^よ舟^{ふね}海中^{かいぢゆう}よ在^あて逆風^{ぎやくふう}の爲^{ため}よ浪^{なみ}よ漂^{うき}はさる 夜^よの四時^よおろイエス^ス海^{うみ}
上^うと歩^かて之^のよ至^{いた}一^一弟^{だい}子^のその海^{うみ}の上^うと歩^かると見て驚^{おどろ}き此^この變化^{へんげ}の物^{もの}な
らんと曰^いて懼^{おそれ}色^{いろ}叫^{さけ}さり イエス^ス頤^ひて彼^{かれ}等^らよ曰^いけるハ心安^{あん}うき我^わあり懼^{おそれ}
る勿^い色^{いろ} ベテロ答^{こたへ}て曰^いけるハ主^{おも}よ若^わ一^一爾^{なら}バ我^わ命^{めい}む水^{みず}と履^はて爾^なの所^{ところ}よ
至^{いた}一^一めよ 來^{くわ}と曰^い給^{あたへ}ひけ色^{いろ}バベテロ舟^{ふね}より下^おてイエス^スの所^{ところ}よ至^{いた}んとて浪^{なみ}
上^うと歩^かされど 風^{かぜ}の烈^{はげ}きと見て體^{からだ}を沈^{ふか}るよりけ色^{いろ}バ主^{おも}よ我^わと救^{あす}きまへ
と曰^い イエス^ス頤^ひて手^てと伸^の己^{おの}と執^{つか}て曰^いけるハ信仰^{しんゆう}うそき者^{もの}よ何^{なん}ぞ疑^{うなづ}ふや
三^{さん}借^{かり}み舟^{ふね}よ登^のけ色^{いろ}バ風^{かぜ}走^はまりぬ 舟^{ふね}あ居^ゐし者^{もの}ちうよりて彼^{かれ}と拜^{あは}一^一曰^いけ
るハ誠^{まこと}よ爾^なの神^{かみ}の子^こなり〇 遂^とよ渡^{わた}てゲテサレの地^{ところ}よ到^{いた}一^一うバ 其處^{そのところ}の

人々イエスと歸て遍く四方より人と遣り凡て病の者を携へ來らるむ只ろ
の衣に被ふ捫らんふとイエスより願へリ捫志者即ち心愈さきたり
爾の弟子古の人の遺傳を犯ハ何故ぞ蓋食する時其手と洗ざきを也
答て彼等が曰けるハ爾曹之亦あんぢらの遺傳よりて神の誠と犯ハ
何故ぞ曰る是神いましめて爾の父母と敬へ又父母と置る者は殺さるべ
しと宣給へり然るふ爾曹は曰て凡て人父母と對あんぢと養ふ可ものぞ
禮物ありと云をろの父母と敬へすと可とモ斯て爾曹遺傳より
神の誠と廢くせり僞善者よイザヤは能あんぢらふ就て預言し此民は口ふ
て我ふ近き唇ふて我と敬へども其心は我ふ遠のり人の誠と歎どあして
徒らふ我と拜モと云りイエス人々と召て彼等が曰けるは聽て悟れ
ふ入るものは人と汚さず口より出るものハ是人と汚すあり弟子きたり
てイニカル日けるリバトサイの人ふの言ひ聞て厭棄ると爾知り答て日
けるは我が天の父の植ざる者はそあ抜るべし彼等と樂あけ瞽者の相する
瞽者あり若めしものも瞽者の相せを二人とも溝ふ落べしペテロイエ
スふ答て曰けるは此瞽と我情ふ解さまへイエス曰けるは爾曹も未だ
悟ざる乎凡て口ふ入ものは腹と連て廁ふ落るべ未だ知ざるの口より
出るものは心より出ふれ人と汚すもの也蓋心より出る所の惡念凶穀姦
淫苟合盜竊妄證謗諑此等は人と汚ものあり然ども手と洗はずして食ふは
人と汚さずイエス此と去てツロとシドンの地ふ往けるふ其他ふ住る
カナンの婦にて呼はり曰けるは主よダビデの裔よ我と憫み給へ我む
すめ兒ふ懲れて甚く苦めりイエス一言も彼ふ答ざりしうを其弟子きたり
てふ請て曰けるれ我儕の後より呼ひるが故ふ彼と去せ給へ答て曰ける之イス
ラエルの家の迷へる羊の外ふ我と遣されず婦きさり拜して曰けると主
よ我と助よめへ答けるれ兒女のパンを取て犬ふ投與ふるは宜らば
いひけるハ主よ然さを乞犬もろれ主人の膳より落る屑と食ふり遂ふイエ

ス答て曰けるは婦よ爾の信仰へ大あり願の如く爾ふ成べし此時より其女ひえたり○
 イエス此と去ガリラヤの海邊ゆき山ふ登りて坐せり三十^{三十}人
 跛者瞽者瘡缺者あよび各様の疾病ある者と伴ひきよりイエスの足
 下ふ置けきを即ち之と醫しぬ是ふ於て瘡者はもれいひ殘疾といえ跛者
 はあゆミ瞽者は見さると人々見て奇みイスラエルの神と榮たり○
 エスロハ弟子と呼て曰けるハ我みの衆人と憫む彼等乞色と偕ふ居み^三
 日ふして食ふも食一飢させて去しむるふと欲ず恐くハ途間ふて惱ん
 三の弟子うきふ曰けるハ野ふて此おやくの人ふ飽そるほどパンと何
 處より得んや^三イエス人々ふ命じて地ふ坐しめ^三七のパンと魚と取て謝し之を
 魚あり^三イエス人々ふ命じて地ふ坐しめ^三七のパンと魚と取て謝し之を
 學て其弟子ふ予しるを弟子乞と人々に予ふ^三食てミム飽さり餘は屑と
 拾しふ七は籃ふ盈り^三之を食るもヒ婦と孩子の外ふ四千人ありき^三イエ
 ス人々と去しゆ船に登てマグダラ^三は境ふ至きり

第十六章

パリサイとサドカイハ人きさりてイエスと試んとて天に休徵と我
 傀ふ見せよと曰けきは^ニ彼等ふ答けると爾曹暮ふ夕紅ふ山で晴あらんと
 言^ニ晨ふ朝紅まさ雲ふ由て今日ハ雨あらんといふ偽善者よ空の景色と
 別ことと知て時に休徵を別ち能ばざる乎^ハ姦惡ある世ハ休徵と求るとも
 預言者ヨナの休徵のほか休徵と予ら乞ヒ遂ふ彼等を離れて去ぬ○^三そは
 弟子むうふに岸ふ到しゆパンを携ふるふと忘^ハイエス彼等ふ曰け
 ハ戒心してパリサイとサドカイの人の麪^ハ酒と憤めよ^セ弟子さ^ハひふ論
 じて曰ける^ハ是パンと携へざりし故あらん^ハイエス乞と知て曰けるハ信仰
 うモき者よ何ぞ互ふパンと携へざりしふと論する乎^ハ未だ悟らざる^ハ五千
 人ふ五^ハパンと予しと^ハ幾筐^ハひろひしや爾曹^ハ乞と記^ハざる^ハパリサイとサドカイハ人の麪^ハ酒と憤
 めといパンふぞきて言ふ非ざると何ぞ悟らざる^ハ是ふ於て弟子^ハの^ハ麪^ハ酒と憤
 酒ふわらでパリサイとサドカイの人の教と謹めと言ふあると悟^ハきり○^三イ

エスカイザリヤヒリビの方ふ到しどき其弟子ふ問て曰けるハ人々ハ人
比子と誰と言や彼等いひけるハ或人ハバブテスマのヨハ子或人ハエリヤ或
人ハエレミヤまた預言者ハ一人ありと言り十五彼等に曰けるハ爾曹ハ我と言て
誰とモる乎十六シモンペテロ答けるハ爾ハキリスト活神ハ子あり十七
答て彼ふ曰けるハヨナ比子シモン爾ハ福あり蓋血肉あんちふ示せる
す天ふ在す吾父あり十八我また爾ふ告ん爾ハベテロあり我が教會とみの
の上ふ建べし陰府は門ハ之ふ勝べららず十九是天國の鑰と爾ふ予へん
爾が地ふ於て繫ことハ天ふ於ても繫あんちが地ふ於て釋ことハ天ふ於て
も釋べし二十遂ふ其弟子と戒めけるハ我とキリストと人ふ告るみと勿れ〇
二此時よりイエスの弟子ふ己のエルサレムに往て長老祭司の長學者等よ
り多の苦と受るつ殺さき第三日ふ甦る等あすべき事と示し始む二十一
ロイエスと援どめて主よ宜らす此事ふんちふ来るまヒと曰けを三十二
三十三日たまひけるハサニンよ我後ふ逃げ爾ハ我ふ礙く者ある

り夫ふんぢハ神は事と思はず人の事と思へり三十四此時イエスは弟子ふ曰
けるハ若きふ從ひんと欲ふ者は己と棄うの十字架と負て我ふ從へ三十五
は生命と保全せんとする者と之と失ひ我さめふ其生命と失ふ者と之と
得べけき也三十六もし人全世界と得とも其生命と失ば何の益あらん乎ま
さ人ふふと以て其生命ふ易んや三十七ろき人の子ハ父の榮光と以てろの使等
と偕ふ來らん其時たのくの行ふ由て報ゆべし三十八誠ふ爾曹ふ告ん人の子
の國と以て來ると見まで此ふ立ものと中ふ死ざる者あるべし

六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハ子と伴ひ人と避て高
山ふ登り給しがニ彼等の前ふて其容貌はり其面日の如く耀き其衣は白
く光れり三十九モーセとエリヤ現れてイエスと偕ふ語ぬロ四〇答てイエス
ふ曰けるハ主よ我儕ふとに居は善もし尊旨ふ適ハゞ我儕ふ三の廬と建せ
さまへ一ノ主のさめ一ノモーセのさめ一ノエリヤの爲ふせん五十九
る時うやける雲うきらと蔽ふ聲雲より出で言けるハ此ハ我旨ふ適ふと

が愛子あり爾曹みをふ聽べし弟子ふをと聞て大におそき倒を伏さり
 イエス來りて彼等ふ手と接おれよ懼る勿と曰けをバ其目と舉し
 惟イエスのほう一人とも見ざりた○山と下る時ふイエス彼等ふ命じて
 入れ子死より甦るまでハ爾曹は見し事と人ふ告べらすと言ひそば
 弟子とふて曰けるハ然バエリヤハ先ふ来るべし學者比云るハ何ぞヤ
 エス答て曰けるハ實ふエリヤは来て萬事と改むべし然ぞ我なんちらふ
 告んエリヤ之既ふ來しふ人こゑと知すたゞ意に任ふ彼と待へり此は如く
 人れ子もまさ彼等より苦難と受ベし是ふ於て弟子バアテスマヒヨハテ
 と指て曰さまへると悟れり○彼等おほくは人れ居とふろふ來しふ或人
 イエス比所にきたり跪き十五日けるモ主よ我子と憫みさまへ癱瘓ふて屢々
 火ふ倒き水ふ倒き甚だ苦めり十六之と爾は弟子ふ携往されご醫すことと得
 ざりきモイエス答て曰ける之噫信あき曲きる世なる故に何時まで爾曹
 を當る居んや我いつまで爾曹と忍んや彼と我もとに携來モ遂ふイエス

免と斥め給へバ免いで其子こは時より愈さり十九其とき弟子ひそりふイ
 エスふ柰り曰けるは我儕ふをと逐出そこと能之ざりしと何故ぞ二十イエス
 彼等ふ曰けるは爾曹信あきが故あり我まことふ爾曹ふ告んもし芥種比如
 き信あらば此山ふ此處より彼處ふ移きと命とも必ず移らん又ふんちらふ
 能ざること無るべし然ど此類ハ祈禱と斷食ふ非ざきを出るふとあし〇
 三ガリラヤと周流とひイエス彼等ふ曰けるは人れ子入は手ふ解さきりつ穀
 ふ來しるをき納金と集る者どもペテロふ來て曰けるは爾曹は師は納金と
 出さやる乎三五あからいへ然すと曰てペテロ家ふ入しどきイエスまづ彼ふ曰けるはシ
 モン爾は如何ふもふや世界は王さちは稅おび貢と誰より徵か己は子よ
 りう他は者よりう云ベテロ彼に曰けるハ他は人より徵なりイエス彼ふ曰
 けるハ然バ子へ與ふことをあし然ど彼等と礙せざる爲ふ爾海に往て釣
 と垂よ初ふつる魚と取てろ口と啓うバ金一と得べし其と取て我と爾は

爲ふ彼等ふ納よ

其とき弟子イエスが來て曰けるハ天國が於て大なる者ハ誰ぞや
 イエス嬰兒と召うれらの中に立て三曰けるハ我まことニ爾曹が告んも
 志改まりて嬰兒の若くならずバ天國入ることを得也然バ凡るふの嬰兒
 の若く自ら謙る者ハこれ天國入於て大なる者なり又已が名の爲ム此の
 如き一人の嬰兒と接る者之我と接るあり然ど我と信する此小子の一人
 と礙うする者ハ磨石とろの頭又懸られて海の深み沈られん方あは益ある
 ペレ此世ハ禍ある哉ろり礙うする事とそきがあり礙く事も必ず來らん然
 そ礙と來らす者ハ禍ある哉ハ若一爾乃手あんちの足おけきと礙かさば断
 て之と棄よ兩手兩足ありて盡ざる火又投入して之と棄よ兩眼あ
 生よ入之善あり九ちも一爾の眼おけきと碍うをバ拔出して之と棄よ兩眼あ
 りて地獄の火又投入らきんよりは一眼みて生よ入は善あり〇爾曹この
 小子の一人とも憤みて輕視するを我るんちらよ告ん彼等が天の使者は天

ムありて天よ在す吾父の面と常よ觀バありナそき人の子は亡ゐる者と教
 はん爲ム來きリ爾曹いのゝ意ふや人もし百四の羊あらん又其一四まよ
 そぞ九十九と山ふ置ひきて迷志一と尋ざる乎ナシ若たづねて之と遇ば我ま
 ことニ爾曹が告ん迷ざる九十九の者よりも尙ろの一と喜ほん吉是の如く
 ムの小子の一人の亡るは天よ在す爾曹が父乃尊旨非ずもし兄弟あん
 ち又罪と犯ぼろの獨ある時お往て諒よも一爾の言と聽ぼろ比兄弟と獲ベ
 志も一聽すべ雨三人の口よ由て證とふ一凡の言と定んぐ爲ふ一人二人
 と伴ひ往もし彼等ふも聽ざを教會が告よも一教會が聞すぼ之と異邦人
 のつ稅吏はおとき者とすべ一我まひに爾曹に告ん凡る爾曹が地に於
 て繫ふと天に於てもつるぎ爾曹が地に於て釋ふと天ふ於も釋べ一我
 まさ爾曹に告んもし爾曹のうち二人比もの地ふ於て心を合せ何事にても
 落を天ふ在す吾父ハ彼等は爲ふ之と成さまふべし蓋已が名は爲ふ二三
 人は集くる處に之我も其中ふ在べあり〇厥時ペテロイエスに來りて曰

けるは主よ幾次まで我兄弟は我に罪を犯すを赦べきう七次まで乎
イエス彼ふ曰けるハ爾ふ七次といへ言じ七次を七十倍せよ 是故ふ天國の王そ
は臣と會計を調んどモるが如し 調べ始しと邑千萬金を負債したる者と
王ふ曳來り志ふ 債ひ方あうりけきバ之ふ命じて其身ろは妻孥をあらむ
る所有とみる闇て債へと曰り そは臣ひきふ一て曰けるハ請乞と寛
給はぞ賛債ふべし 是ふ於てそは臣は主憐みて之と釋ろは負債を免めた
り 其臣いでよ己より銀一百は負債しゝる友ふ遇けきバ之と執へ喉と
り負債を返せと曰 ろは友足下ふ脩伏て求いひけるハ我と寛く給こゝ皆
償ふべ一 然るに之と肯くすして往ろは負債と債ふまで彼を獄ふ入ぬ
三外は友ろは爲る事と見て甚だ哀を往て此事を皆ろは主ふ告一のバ
う乞と召て曰けるハ惡き臣よ爾乞に求一ふ因て我そは負債と悉く免る
さり 我あんちと憐ミ如く爾も亦友と憐むべきふ非すや 聞
りて負債とみる債ふまで彼と獄吏ふ付せり 三若おのく其心より兄弟と

赦すば我が天は父も亦あんちらふ此は如く行給ふべ一

第十九章 イエス此等は事と言畢りしどきガリラヤと去てヨルダンの外ニ
ダヤの境ふ至りけるふ 多の人々従ひしるほ此處ふて彼等と醫し給へり

三 パリサイの人きさりてイエスと試み曰けるハ人ふの故ふ係らず其妻
と出すべ宜め 答て彼等ふ曰けるニ元始ふ人と造り縫ひし者ハ之と男女
ふ造色り 是故ふ人父母と離れて其妻ふ合二人はもは一體と爲ありと云ふ
るを未だ讀ざるう 然を以て二ふハ非ず一體あり神は合せ給へる者ハ人
こゑと離すべからず イエスふ曰けるハ然を離縁狀と子て妻と出せどモ
一セが命ぜしハ何ぞや 彼等ふ曰けるハモ一セハ爾曹の心の不情ふ因て
妻と出すことを容したる也さきど元始ハ如此あらざりき 我あんちらふ
告んもし姦淫の故ふらで其妻と出し他の婦と娶る者の姦淫と行ふあり又い
ださきたる婦と娶る者も姦淫と行ふあり + 弟子等イエス又曰けるハ若し
人妻ふ於て此は如くベ娶ざるよ若す 彼等又曰けるハ此言ハ人をあ受納

るみと能はず唯賦らきたる者は之と爲うべし。ろを母に腹より生來た
る寺人あり又入みせらきたる寺人あり又天國は爲み自らふきる寺人あり
之と受納るみと得もれり受納べし。其とき人々イエスは手と按て祈ら
んみと求ひ嬰兒と彼と携來りけを弟子是と阻たり。イエス曰ける
嬰兒と容せ我と來るみとを禁しむる勿き天國とる者ハ此れ如き者あり
即ち彼等と手と按て此と去ぬ。或人きたりて彼と曰けるハ善師よ我
うざりあき生と得んが爲み何れ善事と行べき。彼と曰けるハ何故
色と善と稱や一人は外と善者いふし即ち神あり若し生命と入んと欲へ
誠と守るべし。彼みたへけるハ何れイエス曰けるハ殺す勿き姦淫する勿
き盜む勿き妄りは證と立る勿き。爾は父と母と敵へ又己は如く爾は隣と
愛すべし。少者かきと曰けるハ是とある我いとけるきより守れるもれ
り何れ腐たるとふろ我とある乎。イエス彼ふと曰けるハ全らん事と欲
く往く當る所と書て讀者よ應せ然きを天と於て財あらん面して來り我
よ從へミ少者みれ言と聞て憂へ去ぬ彼は產業れほいありけ色を也。二
エスろれ弟子と曰けるハ誠と爾曹と告ん富者ハ天國と入こと難し
た爾曹と告ん富者ハ神は國と入よりハ駒駝の針と孔と穿るれ却て易し
弟子之と聞て甚く驚き曰けるハ然を誰の救と受べき乎。イエス彼等と見
て曰けるハ是人ふれ能へざる所あり然を神と能へざる所なし。此と
きペテロ答てイエスと曰けるハ我儕一切と棄て爾と從へり然バ何と得べ
き乎。イエス彼等と曰けるハ我まことと爾曹と告ん我と從へる爾曹の世
あらたまり入れ子榮光比位と坐する時ふんぢらも十二位と坐してイス
テエル乃十二位支派と輪べし。凡て我名と爲み家宅あるひれ兄弟あるひ
れ姊妹あるひれ父あるひれ母あるひれ妻あるひれ子あるひれ田畠と棄る
者ハ百倍と受うつ窮るき生と嗣ん。多れ先ある者ハ後とあり後ある者ハ
先とあるべし。

ふれ一日ふ銀一枚と予んと約束とみし彼等と葡萄園ふ遣せり また九時
おろ出て街ふ徒く立る者と見て ロ爾曹も葡萄園ふゆけ相當の價と予んと
彼等ふ曰け色バ則ち往リ また十二時と三時ごろ出て前の如く行リ 五
時ごろ出て又ほうの立る者ふ遇て曰ける何ゆ終日ふよお徒く立や
之ふ答て曰ける我儕と雇ふ者あきふ因てあり彼等も曰けるロ爾曹も葡
萄園みゆけ相當の價と得べし 日暮るとき葡萄園の主人ろの家宰ふ曰ける
ハ労力たる者等と呼て後よ雇へる者と始とし先の者まで價と給へよ
五時おろよ雇ひし者とも來りて銀一枚づゝと受たり 先の者とも來り
て我儕へ多く受るあらんと意ひしも亦銀一枚づゝと受 人をも來り
て怨つぶやきける みの後至者の勞力たる一時ばかりあるよ終日く
るしみと任あつてふ當る我儕と均しく之とあせり 主人ろの一人ふ答て
曰ける友よ我るんちふ不義とせず爾と銀一枚の約束とあしたるふ非ず
○イエスエルサレムふ上るとき途間ふて人と離き十二弟子と
伴ひて彼等ふ曰ける 我等エルサレムふ上り人子の祭司は長と學者
等ふ賣さきん彼等ふ乞と死罪ふ定め また凌辱鞭ち十字架ふ釘ん爲ふ異邦
人ふ解そべし又第三日ふ甦へるべし○ 其時セベダイ人子等は母ろ人子と
偕ふイエスふ來り拜して彼ふ求るふと有け色バ 之ふ曰ける何と欲
爾は左ふ坐るふと命ぜよ 二イエス答て曰けるロ爾は國ふ於て一人ハ爾は右一人ハ
爾曹ハ我が飲んとせる杯と沐み又色が受んとせるバ 之ふ曰ける何と欲
彼等いひける能そべし 二イエス彼等ふ曰ける誠ふ爾曹ハ我の杯と飲ま
た我うくるバブテスマと受けし然我の右左ふ坐ることハ我び賜べきふ
非ず只色の父ふ備らきたる者ハ賜らるべし 十人は弟子みれと聞て二人

ハ兄弟と憤りイエス彼等と召て曰けるハ異邦は領主いろハ民と主せり
 大人ともハ彼等と上ふ權と操ふ是爾曹の知とふろ也然モ爾曹は中ふ
 てれ然モベラす爾曹はうち大あらんと欲ふ者ハ爾曹が役る者とある
 ベしニモまた爾曹はうち首たらんと欲ふ者ハ爾曹は僕とあるべし此比如
 く人ハ子ハ来るも人と役ふ爲ふハ非ず反て人ふ役ハ又たほくは人ふ代
 て生命と予ろハ贈とあらん爲あり○彼等エリコと出し時たほくは人々
 イエスふ従へり三人の瞽者路は旁ふ坐とりしぶイエスは過ると聞て呼
 叫いひけるハダビデは裔主よ我債と憫ミ給ヘ衆人ふきふ黙きと戒むをせ
 も愈さけび曰けるハダビデは裔主よ我債と憫ミたまヘイエス立止て之と
 呼いひけるハ爾曹乞ミふ何と爲らせんと願ふや三イエスふ曰けるハ主よ
 我債目は啓んふとと願ふ吾イエス憫ミて其目ふ手と掛けミバ直ム見みと
 と得イエスふ従へり

うきら橄欖山はベツバケふ至りエルサレムふ近ける時イエス

二人の弟子と遣さんとして彼等に曰けるハ爾曹むろふは村ふ往やみて
 驢たる驢馬は其子と偕ふあるふ遇ん夫と解て我ふ牽きたき若ふんぢら
 ふ何どり言もハあらバ主の用ありと曰さらバ直ふ之と遣すべし四預言
 者ハ言に視よ爾乃王ハ柔和ふして驢馬をあひち驢馬の子ふ乗みんぢふ來
 るとレヲンハ女ふ告よど云ふ應せん爲ふ如此あせる也弟子ゆき
 てイエスの命ぜし如くあし驢馬と其子と牽きたり己の衣とそは上ふ置
 け色バイエス乞ふ乗りハ衆人おほくハ其衣と途ふ布あるひ樹枝と伐
 て途ふ布ぬ一の門前ふゆき後に從ふ人々呼びひけるハダビデの裔ホザナ
 よ主の名ふ託て來る者ハ福あり至上處ふホザナよ○イエスエルサレム
 ふ至くるとき都城みぞりて鍊動いひけるハ是誰ぞや衆人いひけるハ此
 ハカリラヤハナザレより出たる預言者イエスあり○古イエス神は殿ふ入
 て其中ある凡は賣する者と逐出し發銀者ハ案鵠とうる者は椅子と倒し
 ハ彼等に曰けるハ我家ハ祈禱は家と稱らるべしと錄さる然るふ爾曹乞

セ盜賊比巣どあせり
十四
督者跋者比人々殿ふ入てイエスふ來りけ至バ之を
督しぬ
十五
祭司比長ど學者だち其行たまへる奇事ビ見また兒童輩比殿ふて
呼ひりダビデ比裔ホザナよと云と聞て怒ビ含
十六
イエスふ曰けるハ彼等が
言ふとビ聞やイエス答て曰けるハ然り嬰兒乳哺者比口ふ讚美ビ備たりと錄
さきしと未だ讀ざる乎遂に彼等ビ離き都城と出てベタニヤふ往そふ
宿きり〇
十七
翌あさ都城へ返るとき飢け色バ路は旁ふある一比無花果比
樹と見て其處ふ來りしに葉比他ふ何も見ざりしるバ今よりはち永久も果
と結ぶふと得ざきと之に曰たまひけ色バ無花果立刻に枯ぬ
弟子あれ
と見て奇み曰けるハ無花果は枯るふと何ふ速や
三
イエス答て彼等ふ曰け
るハ我まことふ爾曹ふ告んもし信仰ありて疑はずバ此無花果ふ於るが如
耳ふらば此山ふ命じ此より移さて海ふ入よと云とも亦成ん
且ふんぢ
ら信じて祈らバ求ふ所ことぐく得べし
三
イエス殿ふ入て教たるとき祭司
代長あよび民は長老たち來り日けるハ何れ禮廟と見て此事とるすや誰こ

の權威と爾ふ予しや
二四
イエス答て彼等ふ曰けるハ我も一言あんぢらふ問
ん我ふそに事と告ふば我も何比權威ともて之と行といふふと爾曹ふ曰
べし
二五
ヨハテ比ハアテスマハ何處よりぞ天よりの人よりの彼等たがひふ
論ヒ曰けるハ若し天よりと云バ然バ何ゆ名信ぜざるうと云ん
二六
もし人よ
りと云バ我情民と畏る蓋みあはチと預言者と爲をあり
二七
遂ふ答て知す
と曰イエス彼等ふ曰けるハ我も何比權威と以て之と行か爾曹ふ語らじ
元
爾曹いのふ意ふや或人二人は子ありしる長子ふ來りて曰けるハ子よ今日
丑の葡萄園ふ往て働け
二九
答て否と曰しづはち悔て往たり
三〇
また次子ふら
前は如く曰けるふ答て君よ我往べしと曰しづ遂ふ往ざりき
三一
此二人はも
比孰る父は旨ふ遵ひし彼等いひけるハ長子ありイエス彼等ふ曰けるハ誠
ふ爾曹ふ告ん稅吏もよび娼妓ハ爾曹より先ふ神は國ふ入べし
三二
夫ヨハチ
義道ともて來りしる爾曹ふをと信ぜず稅吏娼妓ハ之と信じたり爾曹乞
と見てあほ悔改めず彼と信ぜざりき〇
三三
また一は督者と聞ある家は主人葡萄

葡萄園と樹り籬と環らし其中ふ酒樽とほり塔とたて農夫ふ貸て他人國へ往し
果期ちうづきけを心其果と收ん爲ふ僕と農夫はもどふ遣せり農夫
也も其僕等と執へ一人と鞭ち一人と殺し一人と石ふて擊りまた他人僕
と前よりも多く遣しけるふ之ふも前は如くあせり我子ハ散ふるらんと
謂て終ふ其子と遣しよふ農夫等ろれ子と見て互ふ曰ける此ハ嗣子あ
り率ふをと殺して其產業とも奪べしと即ち之と執へ葡萄園より逐出し
て殺せり然バ葡萄園は主人きたらん時にふは農夫ふ何と爲べき乎彼
等イエスふ曰けるハ此等は惡人と甚く討滅し期ふ及てろれ果と納る他人
農夫ふ葡萄園と貸予ふべしイエス彼等ふ曰けるハ聖書ふ工匠は棄たる
石ハ家北隅は首石とみより是主は行給るふとふして我僻は目ふ奇とする
所ありと錄さきしと未だ讀ざる乎是故ふ我あんぢらふ告ん神は國と爾
曹より奪ろは果と結ぶ民ふ予らるべし昌みは石は上ふ墜るもはい壞ふ
石上ふ墜とば其もは碎うるべし祭司は長等あよびバリサイ人らきて

譬と聞ふはをらと指て言ふと識イエスと執へんと欲ひ誅しのを唯民と
畏たり蓋人々のをと預言者とすを也

イエス彼等ふ答てまゝ瞽を語りけるハ天國の或王ろれ子は
爲ふ婚筵と設るる如一婚筵ふ請あける者と迎ん爲ふ僕たちを遣し
そ彼等きかるふと好まず又はるは僕と遣さんとして曰けるハ我
ケ筵すてに備きり我ケ牛まさ肥畜とも宰りて盡く備りさきバ婚筵ふ
來色と請さる者ふ言然きも彼等らへりミザリて去ぬ其一人は己は田ふ
王みをと聞て怒り軍勢と遣して其殺せる者と亡一又ろれ邑と焼きり是
ふ於てろれ僕等ふ曰けるハ婚筵すてふ備色とも請さる者の客とあるふ堪
ざる者あ色バ獨ふ往て遇はせれ者と婚筵ふ請けそれ僕途ふ出て善者
をも惡者とも遇ほせの者を悉く集けをバ婚筵は客充満す王客と見んと
て來りけるふ茲ふ一人は禮服と着ざる者あると見て之ふ曰けるハ友よ

如何いかをバ禮服れいふくを着きずして此處こぢゆに來らる乎かのを默然ちくじんさり遂とがたふ王僕おもべふ曰いへけるハ彼かれの手足てあしと縛とがりて外そとに幽暗くらふ投なげいだせ其處そこにて哀かなをまた切齒きつぎをるみと有あるん十四ろを召めしるよ者ものハ多多く一ひとと雖いへども選えらばるよ者ものハ少すくない一〇此時このときパリサイは人ひとにてて如何いかしててり彼かれと言誤いごあやまらせんと相謀あわはせりろの弟子だいしとヘロデ乃黨なとうを遣つかはして云いはせけるハ師しよ爾あれの眞まことある者ものあり眞まことともて神じんは道みちと教きよまさ誰なふも偏ひだりらざるみとと我わ儕きみの知しるハ貌めうふ由ゆて人ひとを取とざきバ也ま然なバ貢ささとカイザルカイザルふ納なるハ善よしや惡あくや爾あれの意いふの我わ儕きみふ告こづけよイエスイエスろの惡あくと知して曰いへけるハ儒善じゅぜん者ものよ何なにぞ我わと試こころむるや貢ささは銀錢ぎんせんと我わふ見みせよ彼かれ等だナリ一ひとビイエスイエスふ携さげ來きりしま之のふ曰いへけるハ此こ像ぞうと號あざなひ誰なく答こたへてカイザルカイザルふ也まといふ是これに於おてイエスイエス彼かれ等だふ曰いへけるハ然なバカイザルカイザルの物ものハカイザルカイザルふ歸きしまさ神じんは物ものハ神じんふ歸きすべしま彼かれ等だ之のをききよ奇きとしてイエスイエスと去さるけりま復生ふせいふ一ひとと言いふせるサドカイサドカイは人ひとて日ひイエスイエスふきさと問きて日ひけるハ師しよモモセモ云いふる人ひともし子こゑくして死死バ兄弟きょうだいうは妻めと娶とて

子こどうミ兄弟きょうだいは後あとと嗣つぐすべべレレと三五茲わざらふ我わ儕きみは中なかふ兄弟きょうだい七人しちにんあり一の兄あにめとりて死子死るき死故ゆゑふ其妻そのまごと次子つぎのこふ遺おほれり三六ろは二ふたは三さんそは七しちまで皆然みなす三七後あとつひふ婦めおともまさ死死さり三八甦よみがへるどきどき此こ婦めおと七人しちにんはうち誰だれは妻めと爲爲べきう是これを彼かれを娶とし者ものハ彼かれ也ま三九イエスイエス答こたへて彼かれ等だに曰いへけるハ爾曹爾曹聖書せいしょとも神じんは能の力りとも知しざるふ由ゆて謬あやまり三一そき甦よみがへるどきどき娶とらす嫁よめす天あまある神じんは使つか等だ如ごと一ひと死死一ひと者ものは神じんふ非あらす生うる者ものは神じんなり三二人々ひとびとふきひきと聞きて其訓くに焉あけり三三吾われアブラハムアブラハムの神じんイサクイサクは神じんヤコブヤコブは神じんあり一あると未まだ讀よさる乎かそもそも神じんは死死一ひと者ものは神じんふ非あらす生うる者ものは神じんなり三四人ひとをして口くちと塞ふさが一ひとめさり三五人々ひとびとふきひきと聞きて其サハは人ひと一ひと處ところふ集あつまりけるが三五そに中うちある一人ひとは教法きょうほう師しイエスイエスと試こころみん爲爲ふ問たずて曰いへけるハ三六師しよ律法りつほうのうち何なには誠まことにか大おほかる三七人ひと々ひとひとふきひきと聞きて其と盡つくし精神じんと盡つくし意いと盡つく一ひと主ぬしある爾あれは神じんと愛あいをべ三八みき第一だいふして大おほなる誠まことにあり三九第二だいも亦またふ同じ己おのれの如ごとく爾あれは隣となりと愛あいをべ四〇凡まことの律

法と預言者へ此二の誠小因り〇 四一 パリサイの人は集まる時イエス彼等が問うて曰けるハ 四二 爾曹キリストふついて如何おもふ乎み誰は子なるか彼等イエスふ曰けるハ 四三 ダビデヒ裔あり 四四 彼等が曰けるハ然バダビデ靈ふ感じて何故みをと主と稱へ一乎ダビデ言 四五 日主也が主ふ曰けるハ我あんぢて敵と爾比足凳とあるまで我みざふ坐そべしと 四五 然バダビデ既ふ之と主と稱みをば如何そは子あらん乎 四五 誰一言みをふ答るふと能はず此日より敢て又とふ者あらん

四六 第二十三章 厥時イエス人々と弟子とよ告て曰けるハ 四七 學者ニパリサイは人のモーセに位よ坐す 四八 故よ凡て彼等が爾曹ニ言ふろと守て行ふべし然彼等が行ふ所と爲みと勿き蓋のをもひ言ひそみて行ひざきを也 四九 また彼等ハ重るつ負がさき荷と括て人比肩ニ負せ已ハ 五〇 一比指ともて之と動すふとすら好す 五一 彼等ハ行ハ凡て人ニ見きんが爲ふもる也ろヒ佩經と幅闊し其衣ハ幅と大ふし 五二 また筵席は上堅會堂は高堂市上に同安人々よりラビラビと稱らきんふと好む 五三 爾曹ハラビハ稱と受るふと勿き蓋るんぢらハ師ハ一人すみちキリストあり爾曹ハミア兄弟あり 五四 また地ニある者と父と稱ること勿き蓋るんぢらハ導師ナシ 五五 また彼等ハ重刑と受けること勿き蓋るんぢら天在モ者あり 五六 導師ナシ 五七 爾曹ハうち大なる者ハ爾曹ハ僕と爲ベシ 五八 凡ろ自己と高モる者ハ卑せらき自己と卑する者ハ高せらきん〇 五九 憚なんぢら禍あるるゐ僞善ある學者とパリサイの人よ蓋るんぢら警婦は家と呑いつぱりて長き祈とあるモ之ふ由テ爾曹最も重刑と受べけきを也 六十 あゝ禍あるるゐ僞善ある學者とパリサイの人よ蓋るんぢら福く水陸と歴巡り一人とも己が宗旨又引人とす既ふ引入きを之と爾曹よりも倍したる地獄は子と爲り 六一 噫るんぢら禍あるるゐ替者ある相よ爾曹ハいふ人もし殿と指て暫く事あし殿の金と指て誓え

ぞ背べららずと 愚ふして誓ある者よ金と金と聖からしむる職とい孰の尊き 又いふ人もし祭は壇と指て誓はざ事みし其上の禮物と指て誓はゞ背べからずと 愚ふして誓ある者よ禮物と禮物と聖からしむる祭は壇と孰う尊き うけ祭は壇と指て誓ふ者ハ祭の壇および其上に凡て物を指て誓ふあり ヨマサ殿と指て誓ふ者ハ殿ねよび其中に在す者と指て誓ふあり ヨマサ天と指て誓ふ者ハ神は寶座ねよび其上ふ坐する者と指て誓ふあり○ ヨマサ天と指て誓ふ者ハ人よ蓋ふんぢら薄荷茴香馬芹の十分に一と取納て律法は最も重き義と仁と信とと爾曹ハ廢ふ是行ふ可もは也の是も亦廢べらざる者あり 誓者ある相者よ爾曹ハ蠶と濾出して駒駝と否もは也 あゝ禍あるうの偽善ある學者とパリサイハ人よ爾曹杯と盤は外と潔して内ふぞ貪欲と淫慾と充せり 誓者あるパリサイは人よ爾曹まづ杯と盤は内を潔せよ然ぞろ乃外も亦きよまるべし○ ヨマサ天と指て誓ふ者ハ人よ爾曹の白

く塗さる墓に似たり外は美しく見きても内ハ骸骨と諸の汚穢ふて充此比如く爾曹もまさ外ハ義く人ふ見きとも内之偽善と不法ふて充 噩あんぢら禍あるうの偽善ある學者とパリサイの人よ爾曹預言者ハ墓とさて義人ハ碑と飾きり 又いふ我憤もし先祖は時小あらむ預言者ハ血と流そみとふ與せざりしをと 然を爾曹ハ預言者と殺し者ハ裔あるみとと自ら詛す みんぢら先祖は量と充せ 三蛇蝮は頃よ爾曹へりで地獄は刑罰と免せんや 是故ふ爾曹ハ預言者と智者と學者と遣さんふ或之を殺し又十字架ふ釘或ひ其會堂ふて之と鞭ち或ひ邑よ至邑へ逐苦めん 三ヨロハ義あるアベルは血より殿と祭は壇は間ふて爾曹が殺しバラキアは子ザカリアは血ふ至るまで地ふ流しきる義人ハ血ハ凡て爾曹ふ報來らんが爲みり 三ヨロハ是誠ふ爾曹ハ告ん此事ミム此代ふ報來るべし 三ヨロハルサレムよ預言者と殺し爾ふ遣さる者と石ふて聲もはよ母雞は離と翼の下ふ集る如く我あんちの赤子と集んとせしふと幾次ぞや然ぞ爾曹は好

さりき 視よ爾曹は家へ荒地とありて遺せん 且き爾曹ふ告ん主は名ふ
 託て來る者也福ありミ爾曹の云んと至るまでは今より我と見ざるべし
 としたりしフ イエス殿より出け色バ其弟子ももみて殿の構造と彼ふ觀せん
 とふ爾曹ふ告ん此處ふ一石も石の上ふ圮をすしてハ遣らヒ イエス檄
 櫄山ふ坐し給へるとき弟子ひろのふ來りて曰けるハ何時みれこと有や
 又爾比來る兆と世に未れ兆ハ如何あるぞや我儕ふ告たまヘ イエス答て
 彼等ふ曰けるハ爾曹人ふ欺るきざるやう慎よ 盖たほくに人臣が名と冒
 きたり我ハキリストありと云て多は人と欺くべし 又ふんぢら戰と戰は
 風聲ときのん然と慎て懼るゝ勿き此等は事ハ皆有る可あり然とモ未期
 ハ未だ至らず 民たみりて民とせめ國ハ國とせめ饑饉疫病地震ところぐ
 あ有ふらん 是とふ禍は始あり 其とき人あんぢらと患難に付一爾曹と
 教そべし又ふんぢら我名は爲に萬民ふ憎きん + 此とき許多にモヒテ蒙る
 事

互ふ付し互ふ憚むべし +また偽預言者あほく起て多は人と欺るん +た不
 法きつるに因て多は人は愛情ひやうのふ爲べし 然を終まで忍ぶ者ハ救
 るよみと得ん 古また天國は此福音と萬民ふ證せん爲に普く天下ム宣傳
 らきん然るれち末期いたるべし 是故ふ預言者ダニエルム託て言をたる
 所は殘暴ふくむべきもは聖處ふ立と見バ(讀者よく思ふべし) 厥時ニダヤ
 ふどる者ハ山ふ遁乞よ 屋上ふ在も比ハ其家は物と取んとて下る勿色
 田よどる者ハ其衣と取んとて歸る勿色 其日あハ孕める者と乳と飲せる
 婦ハ禍ある哉 尔曹冬またハ安息日ふ逃るみとを免せん爲ふ祈色 + 其
 とき大ある患難あり此れ如き患難ハ世に始より今ふ至るまで有ざりき又
 後ふも有じ 若ろは日と少くせら色すバ一人だよ救るゝ者あらん然と
 選きし者は爲ヌ其日ハ少くせらるべし 其時もしキリスト此處ふあり彼
 處ふありと爾曹みいふ者あるとも信する勿き うハ偽キリスト偽預言者
 だち起て大ある休徵と異能と行ひ選きたる者とも欺くふとと得バ之と欺

可^カレバ也^云 わき預^{アラハ}じめ爾曹^{アラハ}み之^トと告^{アマシ} | 若キリスト^ノ野^ノふ在^リといふ者あ
るども出^ル勿^ク室^ムふ在^リと云^ムもは有^ドモ信^ズる勿^ク | ろ^ハ電^ム東^{ヨリ}出
て西^ニふまで閃^クる如く人^ハ子^モ來^ルベ^ク也^ト | ろ^ニ屍^ムは^アる處^ムふ^ニ驚^ム
あつまらん^云 | 此等^ハ日^ハ患難^ハ後^タマ^チふ日^ハ晦^ム月^ハ光^ト失^ハ星^ハ空^モ
よりおち天^ハ動^ハ震^フべし^云 | 其^トき人^ハ子^ハ兆天^ハ現^ルまた地上^モある
諸族^ハ哭^ハ哀^ムと且人^ハ子^ハ權威^ト大^アる榮光^トもて天^の雲^ハ乘^ル來^ルと見ん
又^ニろの使^ハ等^ハ遣^ハ篤^ハの大^アる聲^ト出^シめて天^ハ此極^ハより彼極^ハまで四
方^モより其選^ハし者^ハ集^ハむべし〇 | 夫^ハんぢら無^ハ花果樹^ハ由^テ醫^ハ學^ハべ其
枝^モで^ハ柔^ムるふして葉萌^メバ夏^ニ近^キと知^ル | 此^ハ如^ク爾曹^モ凡^テ此等^ハ
事^ト見^バ時^ニちうく門口^モ至^ルと知^ル | 及^シ誠^ム爾曹^モ告^ム此等^ハ事^アとお
とく成^ムまで此民^ハ廢^ハざるべし^云 | 天地^ハ廢^ハん然^モ我言^ハ廢^ハ | そ^ニ日^ハう^ニ
時^ニと知^ルば^ハ唯^ニわが父^ハミ天^ハ使者^モ誰^モ志^ム者^ハし^ム | ノア^ハ時^ニ如^ク
人^ハ子^ハ來^ルも亦然^ラん^云 | そ^ニ洪水^モ前ノア^ハ方舟^モい^リ日^ハまで人々飲^ム

食嫁娶^ハふとして^云 洪水^モの來^リ悉^ク之^ト滅^ムセまで知^サりき此^ハの如^ク入^ルの
子^モ亦^キたらん^{四十} | 其^トき二人田^モ在^リんふ一人^モ取^ム一人^モ遣^ムべし^云
四二 二人^モ婦^モ磨^ハひき居^ムふ一人^モと^ハき一人^モ遣^ムべし^云 | 是故^モ爾曹^モ
主^モい^ハだ色^モ時^ニきたる^ハと知^ルば^ハ怠^ハらずして守^ム | 然^モ爾曹^モ
は^ハ主^モ八^モをびと何^モ時^ニきたる^ハと知^ルば^ハ其^家と守^ムて破^ムらをま^ヒ然^モ爾曹^モ
もまた預^ムせよ意^モざる時^ニふ人^ハ子^モたらん^ト爲^ムをあり^云 | 時^ニふ及^テ糧^モと彼^モ
等^モ予^シで^ハそ^ム爲^ムふ主人^ハそ^ハ僕^モ等^モ上^ス立^タたる忠義^モして智^ム僕^モ誰^モある
乎^云 | ろの主人^ハ來^リん時^ニくの如^ク勤^ムる^ト見る^ト僕^モ福^ム | 我^ハま^ムと
ふ爾曹^モ告^ム其^{所有}と^シあ彼^モ督^ムらをべし^云 | 若^クろの惡僕^モおののが心^ム我^ハ
主人^モの來^リ遅^ムと意^ム | ろの朋輩^モ打撻^ムて酒^モ醉^ムたる者^モもと共^ム
ふ飲食^ム始^ムば^ハその僕^モ比^ム主人^モあもいざる^ト日^ハあらざる^トの時^ニふ來^リて^云
之^モ斬殺^シ其^報と僞善者^モ同^ムそ^ムべし^云 | 其處^モて哀歎切齒^ムそ^ムるみと有^ム
第一十五章 其^トき天國^ハ燈^モ執^ムて新郎^モ迎^ム出^ル十人^モ童女^モ比^ムふべし

ろの中の五人の智く五人の愚あり。愚るる者の其燈とどるふ油と携へざりしが。智き者い其燈と兼ふ油と器ふ携へたり。新郎あらうりけれども假寐して眠れり。夜半をふ叫びて新郎きたりぬ出て迎よと呼聲ありけれども假寐して眠れり。六夜半をふ叫びて新郎きたりぬ出て迎よと呼聲ありけれども假寐して眠れり。七この童女をも皆おきて其燈と整へたるふ愚あるもの智き者ふ曰ける。八我儕の燈熄んとす願く。九爾曹の油と我儕ふ分予よ。十智きもの答て曰ける。我儕と爾曹とふ恐く。十一足まじ爾曹賣者ふ往て已が爲ふ買。十二色ら買んとて往しと。十三新郎きたりけを既ふ備たる者い之と偕ふ婚筵ふ入しらを門へ閉らき。十四斯て後ろに餘の童女をよりて曰ける。十五主よ主よ我儕は爲ふ開き。十六答て我まことふ爾曹。十七告ん我の爾曹と知す。十八然を怠らすして守き爾曹の日ろは時と知ざきを也。○十九まさ天國の或人は旅行せんとして其僕とよび所有と彼等ふ預る。如し二十各人の智慧ふ從ひて或者ふ。銀五千或者ふ。二千或者ふ。三一千と。予。四正に旅行せり。十五五千と。受一者。往て之と貿易。一他。五五千と。得たり。二

千と受し者もまた他。二千と。得たり。然るふ一千と受し者。往て地と壇ろれ主。金と藏せり。歴久て後ろに僕等。主のへりて彼等と會計せしに。二五千と銀と受一者。ろれ他。五千と銀と携來りて主よ我。五千と銀と預一が他。五千と銀と儲さりと。曰けき。三主のを。主のを。曰ける。あよ善う。四忠ある僕ぞ爾寡ある事。忠あり我。あんちふ多も。と督らせん。爾は主人。五歡樂ふ。八。二千と銀と受し者。きたりて主よ我。に二千と銀と預し。他に二千と銀と儲さりと。曰けき。八。主のを。主のを。曰ける。於善う。忠ある僕ぞ。六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。十九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。二十九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。三十九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。四十九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。五十九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十八。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。六十九。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十一。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十二。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十三。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十四。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十五。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十六。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。七十七。三千と銀と儲さりと。曰けき。八。主よ我。督らせん。爾は主人。

とど受べし 是故ふ彼は一千の銀と取て十干比銀ある者ふ予よ そき有
る者い予らきて尙ありあり無有者いろ乃有る物とも奪るゝ也 無益あ
る僕と外は幽暗ふ逐や其處ふて哀哭切歎するみと有ん○ 三人は子おは
色に榮光ともて諸比聖使と率來る時いろ乃榮光は位ふ坐し 三萬國比民と
ろの前ふ集め羊と牧者は綿羊と山羊と別が如く彼等と別ち 三綿羊と
そ比右ふ山羊とろは左ふ置べし 斯て王ろは右ふとる者ふ云ん吾父ふ
惠るゝ者よ來りて創世より以來あんぢらは爲ふ備らきたる國と嗣 蓋あ
んぢら我の飢し時乞に食せ渴しどき我に飲せ旅せし時乞と宿らせ 三九
裸ありし時乞ふ衣せ病しどき我とみまひ獄ふ在しどき我わ就色ばみり
是ふ於て義者うきふ答て云ん主よ何時あんぢに飢たると見て食せま
渴たるふ飲しよ乎 何時主の旅したると見て宿らせ又裸あるふ衣しや 三九
何時主の病また獄ふ在と見て爾ふ至りし乎 王みたへて彼等ふ曰ん我ま
ことふ爾曹ふ告ん既に爾曹わる此兄弟の最微者の一人ふ行へるゝ即ち我

ふ行しより 四一 遂ふまた左ふとる者ふ曰ん罰せらるべき者よ我と離れて
悪魔と其使者の爲ふ備たる燒ざる火ふ入よ 四二 そは 盖あんぢら我が飢し時わき
ふ食せず渴しどき我に飲せず 三四 旅せし時乞と宿らせす裸ありし時わき
ふ衣す病まさ獄ふ在し時わきと願ざきを也 四四 こは 是ふ於て彼等はさ答て曰ん
主よ何時あんぢに飢まさ渴まさ旅し又裸まさ病まさ獄ふ在と見て主ふ事
ざりし乎 星其とき王こたへて彼等ふい之ん我まふとふ爾曹ふ告ん此最
微者は一人ふ行へざるゝ即ち我ふ行へざりし也 四六 こは 此等の者い窮るき刑
罰ふいり義者い窮るき生命ふ入べし

新約全書 儒イエスふれ諸比言を言竟りて其弟子ふ曰けるゝ 二日の
はち逾越節あるハ爾曹ケ知どころ也ろき人の子ハ十字架又釘らきん爲ふ
付さるべ一 三この此と祭司は長および民は長老等カヤバと云る祭司の長は
邸は庭よ集り 護計ともてイエスと執へ殺さんと共々ふ謀いひけるゝ 祭
は日よ行べらす恐くハ民は中よ亂あこらん○ イエスベタニヤハ癪病

シモソは家より居りまへる時ある婦蠟石の器物と價さる色香膏と盛てイエスは食を所より携來り其首より斟一かば弟子等ふと見て怒と含ひける此糜費のことと爲へ何故ぞや若ふと賣バ多の金と得て貧者又施をことと得ん+イエス知て彼等よりける何ぞ此婦と憤をや彼の我と善事と行へる也+貧者ハ常より爾曹と偕みあをせ我の常より爾曹と偕み在す+彼がふの香膏と我體と齧一ハ我に葬の爲と行る也+忍と誠と爾曹又告ん天に下いばくよても此福音の宣傳らるゝ處又ハ此婦の行一事もそれ記念の爲と言傳らるべ〇其とき十二弟子の一人あるイエスカリオテユダと云るもの祭司は長等の所ふ往て曰けるハ我あんちらと彼と賣させを幾何と予るう遂ふ銀三十よて約一さり此時よりイエスと賣さんと機と窺ひぬ〇除醡節の首は日弟子イエスふ來り曰けるハ我債をざみられ食と爾は爲ふ何處ふ備ふべき乎+イエス曰けるハ京城より某と至ていへ師いふ我が時近きにば我弟子と偕み逾越節筵と爾が家に行

ペーと弟子イエスふ命ぜらき一如にて逾越節食と備ふ日くる時イエス十二弟子と偕み席と就食をる時いひけるハ我あるとふ爾曹ふ告ん爾曹はうち一人をと賣あり彼等いさく要て各イエスふ曰出けるハ主よ我ある乎+答て曰けるハ我と偕み手を孟に着る者の即ち我と賣を者あり人の子ハ己ふついて錄さきる如く逝然其人の子と賣を者ハ禍ある哉の人生きざりあらバ反て幸ありあらん彼と賣をユダ答て曰けるハラビ我あるや之ふ曰けるハ爾の言る如一うきら食をる時イエスバシと取て祝之とさき弟子ふ子て曰けるハ取て食ふと我身ありまた杯と取て謝之彼等ふ子て曰けるハ爾曹み此杯より飲みれ新約の我血ふして罪を赦さんとて衆の人は爲ふ流所のもの也+され爾曹ふ告ん今より後あんちらと偕み新志を物を吾父の國ふ飲ん日まで再びふの葡萄ふて造る物と飲ヒ〇うきら歌と謳てのち橄欖山ふ往り其時イエス彼等ふ曰けるハ今夜あんちら皆をと就て寝のん蓋をと牧者と擊バ群れ綿羊ち

らんと錄さるを也。然し我甦りて後ふんぢらふ先ちカリラヤ。往べ志。ベテロ答てイエス。ふ曰ける。皆あんぢふ就て礙くとも我ハ終ふ礙る。次厄をと知すと言ん。ベテロ。彼ふ曰ける。我ハ主と偕ふ死るとも爾と知すと言ヒ。弟子も如此ぬへり。○厥時イエス。彼等と偕ふケッセマ子といふ處。ふ至て弟子等ふ曰ける。爾曹みよに坐厄を彼處。ふ往て祈らん。口及セベダイ。は二人の子を携へ憂へ哀みと催し。彼等ふ曰ける。我心いさく憂て死るをのり也。こゝふ待て我と偕ふ目と醒しと見。少く進往てひをふ。祈いひける。吾父よ若うなは。在此杯と我より離ち給へ。然ど我心は從と成んとする。非す聖旨ふ任せ給へ。而して弟子ふ來り其寐るを見て。ペテロ又曰ける。如此一時も我と偕ふ目と醒しとること能むざる乎。感ふ入ぬやう目と醒かつ祈ろの靈。ふへ願ふ。色を肉體よ厄きあり。二次ゆきて復いのり曰ける。吾父よ若厄を此杯と飲さで離りふと能ずバ聖旨。

ふ任せ給へ。來りて又かきらば寝たる。見みを彼等は目疲たる也。彼等と離れて又ゆき第三次も同言ともて祈せり。遂ふ其弟子ふ來りて曰ける。今寐て休め時の近し人の子。罪人の手ふ付せん。起よ我僻往べ。我を賣そ者近き。○如此いへるとき十二の一。あるユダ。剣と棒と持する多は人々と偕ふ祭司の長と民は長老の所より来る。イエスと賣す者のをらに號をあいて曰ける。我が接吻せる者ハ夫なり之を執へよ。直にイエスふ來りラヨ安うと曰て彼ふ接吻す。イエス。彼ふ曰ける。友よ何の爲ふ來るや遂ふ彼等すみ來り手とイエスふ指て執へぬ。イエスと偕ふ在し。彼ふ曰ける。爾の剣と故處。ふ取よ。凡て剣と持る者ハ剣みて亡ぶべし。我いま十二軍餘の天使と吾父ふ請て受るふと能むすと爾曹あもふ乎。も一然せを如此あるべき事と錄し聖書ふ如何で應はん乎。○此時イエス人々ふ曰ける。剣と棒と持て盜賊と執ふる如して我と執ふ色さる乎。

已^ハ日^ニ爾^曹^ヲ偕^フ殿^ニ坐^スして^{シテ}誨^シ爾^曹已^ヒ執^ガリ^シ然^ニ此^の如^ハある^ハ皆^ハ預^言者^の錄^シる所^ニ應^成せん爲^{アリ}遂^フ弟^子等^ミア^イエ^スと離^ハきて逃^ハ去^ヌ○^{五七}イ^エス^ヲ執^タる者^ニ曳^ハて學^者と長^老の集^会る所^ニ祭^司の長^カヤ^バ携^フゆ^ク^{五八}ペ^テロ^遠く離^ハきてイ^エス^ヲ從^フひ祭^司の長^ヒ庭^ニま^で至^ルの結^局と見^ムとて内^ニあ^イり僕^ト偕^フ坐^セり^{五九}祭^司の長^等お^よび長^老す^べて^の議^員ともア^イエ^スを殺^シさんとして^{六〇}妄^ハ證^ト求^ミセ^ル得^ス多^シの妄^ハ證^者き^ムを亦^ハえ^ス後^ハまた妄^ハの證^者二^人き^ムり^テ曰^ケる^ハキ^ムの^人裏^ハ言^ムふとあり我^ハよく神^ハの殿^ヒと殿^チて三^日の内^ニ之^ヒと建^タうベ^シと祭^司の長^タちてイ^エス^ヲふ^レ曰^ケる^ハ爾^ムふ^ム言^ム乎^シ此^の人々^の爾^ムに立^タる證^據ハ如何^ハイ^エス^ヲ默^然さ^リ祭^司の長^ムふ^ムへ^テ彼^ハふ^レ曰^ケる^ハ爾^ムキ^ムリス^ト神^ハの子^{ある}る我^ハあん^チと活^ハ神^ハふ誓^セて之^ヒと告^ヘめん^{六一}イ^エス^ヲ彼^ハふ^レ曰^ケる^ハ爾^ム言^ム如^シ且^ハ已^ヒ爾^ム曹^ヲに告^ヘん此^のち^人の子^大權^の右^ニ坐^シ天^ニの雲^ムふ^リ乗^テ來^ルビ爾^ム曹^ヲみ^ムべし^{六二}是^ハふ^リ於^テ祭^司の長^ラの衣^ヲ裂^ケて曰^ケる^ハ此^人ハ^シ襄^ハ瀆^ムと^シ言^リ何^ぞ外^ハふ^證據^ト求^ムや爾^ム曹^ヲも今^ラの襄^ハ瀆^サる^ムと^シ聞^ムあん^チら如何^ハおもふ^手の^モ答^ハて曰^ケる^ハ彼^ハ死^ニ當^ス是^ハふ^リ於^テ彼^等の面^ハふ^唾一且^ハ拳^ハて擊^ケり^マ或^ハ人^ハの^モ批^ハい^シひ^ケる^ハキ^ムリス^トよ爾^ム擊^ケ者^ハ誰^ハ我^ハ偕^フ預^言せよ[○]ペ^テロ^庭ふ^坐み^ケる^ハふ^或婢^{キタア}て爾^ムガリラヤ^ハイ^エス^ヲ偕^フあり^ト曰^ケ色^バペ^テロ^出て門口^ハ至^カる時^ニた^ハ他^ハ婢^ム見^ム其處^ハ其^ハ者^ニ曰^ケる^ハ此^人もナザレ^のイ^エス^ヲ偕^フみ^カ在^シペ^テロ^よ肯^ハず^シ誓^フ我^ハあ^ハ人^ハ知^ス誓^ハあ^ハて旁^ラふ立^タる者^ハ近^テペ^テロ^ハふ^レ曰^ケる^ハ誠^ム爾^ム黨^ハ一人^ム有^リ蓋^ムあん^チは方言^ハあん^チと顯^セり^{七四}是^ハふ^リ於^テペ^テロ^ハ置^フ且^ハ誓^ハ我^ハあ^ハ人^ハ知^スと曰^フしが頓^ハ雞^鳴ペ^テロ^イエ^スの雞^ムあ^ハざる前^ハあん^チ三^次見^ムと知^スといひん^ト云^ハま^ハへ^ル言^ヲ憶^起し^シ外^ハ出^テ悲^ム哭^リ

さんとし。既あ彼と縛ひきゆきて方伯のボンテオピラトに解せり〇
是ふ於てイエスを賣しユダ彼の死ふ定らきしを見て悔ろの銀三十ビ祭
司の長長老等ふ返して曰けるハ無辜の血と付し我は罪と犯しぬ彼等い
ひけるハ我僻ふ於て何ぞ與らんや爾とづら當べし。ユダろの銀と殿
ふ投棄て其處と去ゆきて自ら縊さり。祭司の長等ふの銀と取て曰けるハ
此ハ血の價ふ乞を賽錢の箱ふ入べらすとて。共ふ謀ふの銀ともて族
客と葬る爲ふ陶工の田と買り。故ふ其田ハ今ふ至るまで血田と稱らる
是ふ於て預言者エレミヤふ託い之色さる言ふイスラエルヒ民ふ佑ら色佑
らきし者の價の銀三十ビ取主は我ふ命ぜし如く陶工ヒ田と買ぬと有
ふ應へり〇。借イエス方伯は前ふたつ方伯イエスふ問て曰けるハ爾ハ
ユダヤ人ヒ王あるうイエス之ふ曰けるは爾ダ言る如し。祭司の長長老だ
ち彼と詮ふ乞ども何の答もせず。是ふ於てビラト彼ふ曰けるハ此人々ふ
んちふ立る證のうく大あるビ爾きのざる乎。方伯の甚奇とせるまでふイ

エス一言も答せざりき。この祭日ふは方伯より民に願ふ任せて一人の
四人と釋ヒ例あり。時ふバラバと云ふ一人は名高き四人ありけり。を
ビラト民の集り一とき彼等ふ曰けるハバラバの又ハキリストと稱ふるイ
エスある乎。あんぢら誰と釋さんと欲ふや。み乞娼妓ふ由てイエスと解
したりと知バあり〇。方伯審判ヒ座ふ坐りさる時ろの妻いひ遣一け
るハ此義人ふ爾干るみと勿乞蓋見き今日夢の中ふ彼ふつきて多く憂さり
ニ祭司の長長老たちバラバと釋ヒエスと殺さんふとを求と民ふ唆む
方伯ふたてて彼等ふ曰けるハ二人はうち孰と我あんぢらふ釋さんふとと
望むや彼等バラバと答ふ。ビラト曰けるは然をキリストと稱ふるイエスふ
我あふと處べき衆ふ十字架ふ釘よと。方伯いひけるハ彼あふは惡事
を行しや彼等ますく。喊叫て十字架ふ釘よと曰。ビラトうけ言ひ益なく
いて唯亂の起んとせるど志り水と取て人々の前ふ手とあひひ曰けるハ此
義者ハ血よ我の罪あ。爾曹みづら之ふ當を。民をあ答て曰けるハ此

血ちの我儕わがと我儕わがの子孫こ孫まごと係かゝるべー 是二六 ふ於おて バラバと彼等かれらと釋しイエス
と鞭むちちて之ヒと十字架十じやか又釘つけん爲な付けし一七 彼ヒは衣ころもと襯はさて絳色あかいろに袍うはざと着きせ 棘ごれいふて冕かんむり
至いたり全營くわぢゆうと其そのもとふ集あつめ二八 彼ヒは衣ころもと襯はさて絳色あかいろに袍うはざと着きせ 棘ごれいふて冕かんむり
編あみうの首かくふ冠かんら一一め又草よしと右手うしゆふ持もせ且まろの前まへ蹠ひづまブくき嘲あざ弄なう一一て曰いける二九
ユダヤ人の王安ヤナらき三十 まさ彼かれふ唾つばし其草よしと取とて其首かくと擊うり三〇 嘲あざ弄なうし畢まつり
て其袍うはざと之ヒ故衣きののころもとさせ十字架十じやか又釘つけんとて彼ヒと曳ひゆく三一 ろは出し時クレ
子こ入いヒシモシモンといふ者あふ遇あけこを強いて之ヒふ其その十字架十じやかと負うせくり三二 彼等かれら
ゴルゴダ譯てゼ即すなはち髑髏くろこと云いる處ところふ來きり三三 醋醋と膽いと和なせてイエスイエスと飲のせん
と爲ありしこ嘗なて飲のみとせざりこき三四 斯スてイエスイエスと十字架十じやかと負うせくり三五 ち髑くろこ
と拈ひて其衣ころもと分わみを預あ言い者はと言いふ三六 彼等かれら互たがひよ我わが衣ころもを分わきくぐ裏うら衣ころもと闊くわムモ
と云いふ應こころへり三七 兵卒ひょうそくふくふ坐すわ志してイエスイエスと守まもり三八 また罪標ちざいひ此こニユ
ダヤ人の王イエスイエスありと書かして其首かくの上うと置おり三九 其と二人ふたりは盜賊ひよイエ
スイエスと偕ともニ一人ひとりは其左ひだり又十字架十じやか又釘つけらる四〇 往來わらわ者はイエスイエスと

留のり首こを搖ゆて曰いける四一 獄くわを毀こちて三日さんかと建たる者は自己自分と救救へ爾やるも
し神神は子こゐらを十字架十じやかより下さよ四二 祭司まき長學者きょうがくしゃ長老じょうろう等だも亦よあふじく嘲あざ弄なう
して曰いける四三 人ひとと救救て己おのが身みと救救あたえず若わがイエスラエルイエスラエルは王おうたらを今いま
十字架十じやかより下さるべー然だを我わ儕わがられと信しんぜん四四 彼ヒの神じんと依頼よりたのめり神じんもー彼ヒ
と愛いしまほ今いま救救ふべし蓋ふたを我わの神じんの子こありと云いし也四五 同ひと又十字架十じやか又釘つけら
られたる盜賊ひよも同ひとイエスイエスを置おきり四六 罪ちざい十二時じより三時じふ至いたるまで
其地ちあまねく黑暗くろ暗とある四七 三時じごろイエス大聲おおこゑふエリエリラマサバクタ
ニニ呼よりぬ之ヒと譯て吾わ神じんが神じんんぞ我わと遺おたまふ乎まと云いる也四八 旁わざわざらふ
立たたる者はのうち或ある人ひとみをと聞きて彼ヒはエリヤエリヤと呼よるなりと曰いふ四九 そは中なか一
人ひと直ただふ走はり往はて海かい絨ゆとどり酷ひどと含もせ之ヒと革かわふつけてイエスイエス小飲こしむ五〇 餘ほか
人ひと曰いける之ヒ俟まニエリヤエリヤ來きりて彼ヒと救救ふや否いな試こころひべし五一 イエスイエスまた大聲おおこゑふ呼よ
りて氣絕きぜつたり五二 腹はらの幔まんより下さまで裂さて一一とあり又お地ぢふるひ磐いはさけ五三 墓はかと出でて
ひらけて既既ふ窓まどたる聖徒せいとの身みあほく避よへりイエスイエスは避よ色いろる後ご墓はかと出でて

聖城入る人現れたり○百夫長偕イエス守たるも地震あり其有し事見て甚く懼れ此誠神子ありと曰り○此處遙望みたる多の婦ありし彼等ガリラヤよりイエス從ひ事し者等あり其中ふ居し者マグダラマリアヤコブヨセ母あるマリアビセベダイの子等の母とあり○日くきてイエス弟子あるヨセフと云るアリマタヤト富人きたりてピラト往イエスの屍と請しバピラトろヒ屍と付せと命すヨセフ屍と取て潔き桌布に裹ミ之と磐ふ鑿さる己が新しき墓ふあき大なる石と墓の門と轉志て去マグダラのマリアと他のマリアと墓あ野て坐し其處ふ居り○預備日ヒ翌日祭司の長とパリサイの人等ピラト所に集來り曰ける主よ我憤憶起せり彼の僞者いきて在レヨキ三日のうち隣らんと言一是故又命じて三日ふ至まで墓を固守一めよ恐く其弟子夜きりて之を竊み死より甦りたりと民ふ言ん然バ後の感ハ先よりも愈勝るべ一ピラト彼等ふ曰ける守兵ヒ爾曹ふあり往て意の

まよふ固守一めよ是ふ於て彼等ゆきて石ふ封印し守兵をして墓を固守志めたり

第二十八章 安息日終て七日は首の日黎明ふマグダラのマリア及び他のマリアの墓と觀んとて來りレ大なる地震ありて主の使者天より降り墓門より石と轉し其上ふ坐スヨロヒ容貌閃電ヒおとく其衣服ヒ雪おとく白し守兵うきと懼戰き死たる者は如くありぬ天使みたへて婦日ける爾曹木ろる勿乞我あんちらの十字架釘らきイエス尋るふと知彼此ふ在す其言る如く甦りたり爾曹きたりて主は置キ一處と見よ丘やきて其弟子み告よ彼死より甦り爾曹またて先ちてガリラヤふ往り彼處ふ於て爾曹のをと見ベ我ふ乞と爾曹又告婦懼るおらも甚く喜びて急暮とさり其弟子に告んと走り往り弟子又告んとて往ときイエス彼等遇て安のきと曰給ひけれど婦すのみ其足と抱て拜しぬイエス彼等ふ曰ける懼る勿乞去て我お兄弟又ガリラヤふ往と告よ彼處

ふて我と見ベ一〇 十一 婦れ去しけち守兵はうち或者とも城ふ至り凡て有
し事と祭司の長等に告一のバ 十二 彼等と長老あつまりて共ふ議たはくヒ銀
子と兵卒ふ給て曰けるハ 十三 爾曹いへ我儕の寢たる時そに弟子夜きたりて
彼と竊りと 十四 此事もし方伯ふ聞るとも我儕りをふ勸て爾曹よ憂慮あうら
志めん 十五 うそら銀子と取て囁めらきさる如志さり一是よ於て此ヒ如き話
今日ふ至るまでニダヤ人の中ふ傳播らきさり〇 十六 十一ヒ弟子ガリラヤム
往てイエスは彼等又命じ給ふ所の山ふ至り 十七 イエスと見て拜せざ然せ
疑へる者もありき 十八 イエス進て彼等よ語いひけるハ天はうち地は上の凡
ヒ權と我ふ賜きり 十九 是故み爾曹也きて萬國の民ふバブテスマヒ施し之を
父と子と聖靈の名よ入て弟子とし 二十 且わダ凡て爾曹よ命ぜし言を守をと
彼等又教よ夫忍をハ世ヒ末まで常々爾曹と偕み在なりアーメン

